

新京都戦略（改定案）に対するパブリック・コメントの結果について

1 募集期間

令和8年2月5日（木）～令和8年3月8日（日） 32日間

2 主な周知方法

- ・ 本市施設等での意見募集チラシの配架（区役所・支所、地下鉄駅構内など）
- ・ 京都市ホームページでの掲載
- ・ 市民しんぶん3月1日号での掲載
- ・ 本市公式SNSでの発信、インターネット広告を活用した周知
- ・ 関係団体、関係行政機関を通じた周知

3 募集結果

意見総数：811件 意見者数：243人

4 意見総数の内訳

<年齢別>

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
38件	76件	76件	177件	199件
60歳代	70歳以上	不明		
135件	67件	43件		

<居住地別>

京都市内	京都市外	不明
699件	66件	46件

<職業等>

会社員	公務員	自営業	フリーター	主婦・主夫
332件	62件	109件	12件	33件
学生	無職	その他	不明	
53件	55件	94件	61件	

<回答方法別>

WEB（意見フォーム、メール）	左記以外（FAX、対面、郵便）
715件	96件

5 意見総数の内訳（改定案の項目別）

分類	件数	割合
I 戦略の概要	30	3.7%
II 基本的な姿勢	43	5.3%
III 京都の本質的な価値・魅力	16	2.0%
IV めざすまちの将来像	11	1.4%
V 重視する3つの視点	7	0.9%
VI 「夢中」がつなぐ、学び合いのコミュニティ「京都学藝衆構想」	23	2.8%
VII リーディング・プロジェクト	226	27.9%
①世界中からクリエイティブ人材がつどい・交じる「テラス」のまちプロジェクト	(14)	(1.7%)
②公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト	(16)	(2.0%)
③市民生活と「観光」の両立プロジェクト	(64)	(7.9%)
④地域の魅力向上プロジェクト	(17)	(2.1%)
⑤京都ならではの交通ネットワーク形成プロジェクト	(28)	(3.5%)
⑥「世界に唯一」を目指し、知や技術を創発する企業立地促進プロジェクト	(10)	(1.2%)
⑦世界と社会にインパクトを与えるスタートアップ創出・成長プロジェクト	(10)	(1.2%)
⑧「千年の都から次の千年へ」文化継承・価値創造プロジェクト	(14)	(1.7%)
⑨まち中に「学藝」があふれるプロジェクト	(10)	(1.2%)
⑩市役所・区役所の「つなぐ」機能強化プロジェクト	(9)	(1.1%)
⑪地域の「絆」で支え合う子育て応援プロジェクト	(14)	(1.7%)
⑫京都固有の町並みを次世代に「つなぐ」プロジェクト	(14)	(1.7%)
⑬「山紫水明の都」ならではの生物多様性・未来継承プロジェクト	(6)	(0.7%)
VIII 政策編	235	29.0%
政策編全般	(7)	(0.9%)
1 京都のまちが紡ぐ文化の力を活かし「新たな魅力・価値を創造し続けるまち」	(58)	(7.2%)
2 居場所と出番により、つながり・支え合う「包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるまち」	(42)	(5.2%)
3 京都の伝統・知恵・イノベーションの力により「都市の活力と成長を支える産業が育つまち」	(21)	(2.6%)
4 京都ならではの学びと子育て環境を通して「未来を担う子ども・若者を社会全体で共にはぐくむまち」	(37)	(4.6%)
5 豊かな自然・歴史的景観と地域の魅力を活かした「自然環境と調和する持続可能なまち」	(40)	(4.9%)
6 市民のいのち・暮らしを守る「安心安全で災害に強いレジリエントなまち」	(30)	(3.7%)
IX しごとの仕方改革編	56	6.9%
X 持続可能な行財政運営の確立（財政・組織体制編）	34	4.2%
XI 京都の本源的な課題への取組	26	3.2%
XII 戦略の推進	31	3.8%
XIII その他の意見	73	9.0%
合計	811	

6 主な御意見と本市の見解

次ページ以降のとおり

※ お寄せいただいた全811件の御意見のうち、戦略に反映させていただいた御意見（33件）のほかは、今後の戦略や各施策の推進に当たっての参考（778件）とさせていただきます。

I 戦略の概要

(御意見要旨)	(件数)	
(1)戦略の概要に対する意見	30	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都は大好きな町だったが、他都市から京都に移住し、より魅力を感じている。今回の試みをきっかけによりよいまちづくりを官民一体で進めていくことを願う。 ・市民生活第一と言いながら、学藝界やリーディングプロジェクトなど、生活の中で使わない言葉ばかりが出てきていて、とてもわかりにくい。わかりやすい言葉への変更、またはわかりやすい言葉で例示・注釈を入れてほしい。 ・京都基本構想や京都学藝界構想など言葉だけが一人歩きしている印象なので、もっと市民に理解できるような工夫をするべき。 ・全体的に難しい言葉が多いので、もうちょっと分かりやすいと思う。 ・京都学藝界構想など、聞きなれない言葉が難しい。 ・全体的に町の中心部、いわゆる洛中のことばかり書かれているように感じる。よく読むと周辺や自然のことも書いてあるが、京都市の計画だから、周辺部の人間の気持ちも考えてほしい。 ・わかりにくい言い方をせず、中身を具体的に伝えてほしい。 ・恐れずにどんどん前向きにトライし、文章よりも行動して結果を出し、日本、世界をリードしていくことが必要。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>新たに「戦略の改定に当たって」等において、戦略の取組が、市民のウェルビーイング実感や住民福祉の向上につながるものと受け止めていただけるよう、市民の暮らしの実感につながる記載を充実するとともに、「京都の本質的な価値・魅力」は、市域に広がる豊かな自然の恵みにより育まれ、人々が紡いできたこと、それぞれの地域の豊かな個性、まち柄を活かしたまちづくりを進めること等を追記しました。また、「VI 京都学藝界構想」において、具体例示の追記や写真を盛り込むとともに、政策集の柱1において、*** in Residence Kyotoに注釈を追記するなど、解説を充実することで、可能な限り具体的に分かりやすい表記にしました。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、市民の皆様、そして京都のまちにさまざまな関わりを持つ「広い意味での市民」の皆様と積極的に対話と協働を重ね、すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市 京都」の実現に向けた取組を進めてまいります。</p>

Ⅱ 基本的な姿勢

(御意見要旨)	(件数)	
(1)基本的な姿勢に対する意見	43	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の暮らしをもっと大事にしてほしい。観光業に振りすぎている。 ・広い意味での市民とのつながりや京都学藝衆構想は、つながりを強制されているように感じる。積極的な人は行政に頼らずとも何とかしていくものであり、「つながらない生活」や「静かな生活環境」を好む人々も尊重され、支援されるべき。 ・市民生活第一を徹底する政策をしっかりと盛り込んでほしい。 ・「新しい公共」とか「ひらく」という考え方には賛同するが、官と民、内と外の垣根、市民・地域・NPO・企業・大学など多様な主体との対話の前に、市役所内の部局間の垣根がこうした公共創出の障害になっているように思う。 ・市民生活第一、すべての人に「居場所」と「出番」があること、良い施策だと思う。官民・内外の垣根を感じさせないよう低くなること、行政がHUBとなり、市民や地元団体等の要望が施策に反映されやすくなることを期待している。 ・生活・文化様式、本物の技、伝統的な町並み、京都ならではの商いなど、昔からの京都の街中を連想させる言葉が並んでいる。京都のまちの本質的な価値・魅力とは、中心部の京都の昔からのまちの魅力のことか。 ・京都の価値は「歴史文化」だけでなく、それを守り続けてきた市民の暮らしそのものにあると感じる。それを守るためには、都市としての成長戦略が必要。文化・観光・大学・産業を結び付けた都市経営を進め、民間や大学の力を活かしながら京都の価値を次の世代へとつなぐ政策の具体化を期待したい。 ・都市の持続可能性を高めるためには、民間の力を最大限活用する都市経営と財政規律の徹底が不可欠であり、行政の役割もより戦略的に見直していく必要があると考える。 ・文化と観光資源に恵まれている京都市の魅力は、「都市としての基盤投資」が伴ってこそ、真の競争力になる。投資を避け、更新を先送りし、文化と観光だけに依存しては、文化首都としての誇りを守るところか、全国から停滞の象徴として見なされる危険すらある。「突き抜ける世界都市京都」という理念を掲げるのならば、市職員一人ひとりが「京都を再び前に進めるのは自分たちなのだ」という意識や気概を持ち、行政が未来に向けて変わる覚悟を持たなければならない。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>新たに「Ⅱ 基本的な姿勢」等において、戦略の取組が、市民のウェルビーイング実感や住民福祉の向上につながるものだと受け止めていただけるよう、市民の暮らしの実感につながる記載を充実するとともに、「京都の本質的な価値・魅力」は、市域に広がる豊かな自然の恵みにより育まれ、人々が紡いできた旨を追記しました。「市民生活第一の徹底」、「京都の本質的な価値・魅力の継承」、「新たな京都を切り拓く」、「新しい公共の推進」、「市役所・職員が変わる」ことを基本姿勢に、頂いた御意見を参考とし、官と民、内と外の垣根を低くし、多様な主体とゆるやかなつながりを紡ぐ観点や、都市の活力を市民の暮らしや生業を支え、豊かさの実感につなげる観点を大切に、戦略に掲げる取組を着実に進めてまいります。</p>

Ⅲ 京都の本質的な価値・魅力

(御意見要旨)	(件数)	
(1)京都の本質的な価値・魅力に対する意見	16	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都らしい風景、街並み、文化などは変わらずあってほしい。 ・教員として修学旅行で何度も京都を訪れる中で、インバウンド増加による窮屈さを感じる。京都の歴史・文化を日本の文化と自負し、他県から訪れる子どもたちにも継承する気持ちで取り組んでほしい。 ・他の都市にない京都の本質的な価値をもっと丁寧に教えてほしい。 ・京都は日本人の故郷であるべきであり、観光地にしてはならない。歴史文化を大切に、日本人が訪問しやすい街にするべき。特に修学旅行の学生生徒が訪れやすい街にならなければ、京都に未来はない。 ・京都に憧れて移住した人から、日常的に文化に触れられることや風景を見ながらの散歩ができるという話を聞くと、この景観を守りたいと感じる。 ・歴史ある市内中心部のことを書いてるようにはか思えない。郊外で暮らす人は、京都の本質的な価値と関係ないということか。 ・本物の価値が十分に理解されないまま、安価で効率的なものが求められる風潮がある。京都の文化は、本物を守る人、技術、そして精神によって支えられている。文化とそれを支える職人や技術が持続していくための、より強い経済的な支援と政策を期待する。 ・京都の価値＆魅力は『和』。寺社や建築物など見て感動したり、京都ならではの魅力溢れる体験を大切にしてほしい。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>新たに「戦略の改定に当たって」等において、「京都の本質的な価値・魅力」は、市域に広がる豊かな自然の恵みにより育まれ、人々が紡いできた旨を追記しました。改定案では、先人が大切に育み紡いできた「京都の本質的な価値・魅力」を次の世代に継承し、さらに高める視点を特に重視し、京都学藝衆構想や京都の本源的な課題への取組を盛り込んでおります。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、できることから早期に着手し、中期的な視点で継続して取組を進めてまいります。</p>

IV めざすまちの将来像

(御意見要旨)	(件数)	
(1)めざすまちの将来像に対する意見	11	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目指すまちの姿」の対象地域が不明確。京都市内の過疎地域にも目を向け、全体を見渡してほしい。 ・人口減少・高齢化が進む中、小さな京都か大きな京都か、都市の将来像の明確化が必要。外国人材、特に基幹産業を支える層の受け入れ方針が重要であり、地域交流、日本語支援、多文化共生の具体策を都市戦略として明示すべき。 ・京都基本構想は長文で抽象的のため、読まれにくい等の課題があるが、新京都戦略の「めざすまちの将来像」において簡素に示し、施策につなげようとする姿勢に賛同。 ・暮らしやすく、住みやすい京都市になってほしい。 ・『街中が「夢中」と「感動」にあふれ、学び続けられる』とあるが、公教育だけでは受験で希望する学校に合格できるだけの学力がつかない課題の解消が先では。また、介護施設・人材は不足し、世界の文化と悪い意味での交流、マナーが良くない外国人観光客の多さにうんざりしている方も多い。住みやすいと思ってもらえることなくして街に愛着はわかない。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>新たに「戦略の改定に当たって」等において、「京都の本質的な価値・魅力」は、市域に広がる豊かな自然の恵みにより育まれ、人々が紡いできたこと、それぞれの地域の豊かな個性、まち柄を活かしたまちづくりを進めること等を追記しました。</p> <p>京都基本構想では、2050年を見据え、京都の本質的な価値・魅力である3つのまち柄（歴史と文化の積み重ね、自然との共生、人とのつながり）を未来へ継承するため、9つのまちの将来像を描いております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、新京都戦略、政策分野ごとに方針や取組等を定める分野別計画、毎年度の予算を通じて取組を具体化して推進し、理想と現実の間に立ちほだかる数多くの課題を乗り越え、構想が描くまちの実現を目指してまいります。</p>

V 重視する3つの視点

(御意見要旨)	(件数)	
(1)重視する3つの視点に対する意見	7	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の本質的な価値、魅力がインバウンドによるマナー悪化、交通不便、物価高騰で失われつつある。市郊外までも観光地化し、飲食店の価格、地価、家賃が高い。目指すまちとして、 ①観光客だけでなく地元民が利用しやすい店や場所を作る、②郊外に若い世代が来られるエンタメ施設を作る、③神社仏閣以外の強みを作る、の3点を重視すべき。 ・全てに共通するが、内向きである。京都は観光という平和産業のメッカなので、世界平和に貢献するなど大きな視野で市民に対して訴えるべき。 ・V「きわめる」「つなぐ」はとくに進めてほしい。他都市と異なる魅力を持ちながら、生かしていない。多くの学生が集まる都市なのに、そういった将来世代を手放している印象で非常にもったいない。土地が少ない、交通網がいまいちという課題もあるが、若い人に魅力的な教育と保育の良好さがある。企業から魅力的な京都市独自の技術性や、都市ブランドと災害への強さも備えている。ぜひ、人が働き、暮らし、生きるのに魅力のある街にしてみたい。 ・「ひらく」について、小中高生の居場所がなくなりつつあるため、図書館をはじめ安心して使える公共空間を開放する取り組みは是非広げていただきたい。子どもたちは自習するスペースも探している状況。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>戦略を推進する3つの視点として「ひらく（開・拓）」、「きわめる（究・極）」、「つなぐ（継・絆）」を掲げております。</p> <p>改定案では、3つの視点に基づき先導的に取り組むリーディング・プロジェクトに「④地域の魅力向上プロジェクト」と「⑤京都ならではの交通ネットワーク形成プロジェクト」を追加するとともに、3つの視点のすべてに通じる「京都学藝衆構想」を分野横断で展開することとしております。</p> <p>3つの視点に基づき、これらの具体的な取組を進めていくことが重要と考えており、頂いた御意見を参考とし、戦略を着実に推進してまいります。</p>

VI 「夢中」がつなぐ、学び合いのコミュニティ「京都学藝衆構想」

(御意見要旨)	(件数)	
(1)「京都学藝衆構想」に対する意見	23	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都学藝衆構想」は、これまでの京都の価値や営みに取って名前をつけることで、守り、活性化する試みと理解。放置すれば維持できないという危機感の現れであり、行政の試みに賛同。 ・京都学藝衆構想は他都市ではあまり聞いたことのない、京都ならではの取組なのでぜひ進めてほしい。19ページに分野の例示はあるものの、具体的にどのような人なのか少しイメージはしづらいつらと感じた。例えば家元、彫刻家、まちの匠、料理人といったイメージしやすい表現があるともっと良くなると思う。 ・京都学藝衆構想について、このままでは全く市民に浸透しないため、具体例を挙げる、注釈で示す、具体的な目標を掲げる、政策集で前面に押し出すなど、もっとわかりやすく説明すべき。 ・市民生活第一の徹底を実現するに当たり、何故、学芸衆構想が第一に打ち出されるのか理解できない。伝統文化の維持や魅力を高める意味は理解するが、少子高齢化が加速化し、現実的かつ即効性のある将来性ビジョンが求められる中、例えば現実路線の福岡市と比べ悠長な打ち出しを感じる。 ・京都学藝衆という言葉が良くない。「幅広い分野の『学芸』」とあるが、例示の12分野を「学藝」が包括しているとは、市民は認識していないと思う。むしろ『文化』が包括していると考えるのが一般的でないか。「学藝衆」の語感の一部のエリートを指すように取られかねず、市民のほとんどが違和感を持つだろう。 ・伝統文化や芸能など、技術保持者の高齢化やコミュニティの消滅が進む中で、次世代継承は本当に大切であり、今、京都でないとできないこともたくさんある。「教えることが更なる学びに」を活かして頂けるような仕組みと実効性も期待している。 ・強制や統率ではなく、自発的に集まる人たちをどう作るのか、入口部分が一番難しい。単に興味のある人だけを集めるのでは広がりが生まれにくい。潜在的に興味を持っている人への呼びかけと気軽に参加できる仕掛けづくりをどうするのか、具体化を図ってほしい。 ・多くの人は文字だけ読んでも分からないのでは。言葉や考え方より、具体の取組が大事。市民や地域に身近な区役所が地域の色や課題を踏まえながら、面白い取組をできたら、効果的なものになるのではないかな。 ・京都学藝衆構想はとっつきにくい印象を受けるが、趣旨はよい。地域に一番身近な区役所でイベントや学びを広げれば、子どもや若者たちが地域の価値・魅力に気付き、学藝衆構想もより身近な取組として理解してもらえるのでは。 ・「京都学藝衆」は、伝統文化や伝統芸能に関わる人や高IQの人のためと思ったら、もっと広いテーマのことを子ども達も含めて触れて学んで残していこうという内容だった。京都には地域以外の人は知らない魅力がたくさんあるので、現場に近い区役所と地域が一緒になって魅力や資源を掘り起こして学んでいくようなプロジェクトにしてはどうか。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>新たに「VI 京都学藝衆構想」等において、追記や写真掲載等、可能な限り具体的で分かりやすくなるよう工夫しました。また、すべての区役所・支所に設置した区Hub等が結節点となり、地域の資源を掘り起こしながら、各地域の特色も踏まえた学び合いのコミュニティづくりを促進していく旨等を追記しました。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、多くの市民の皆様にご理解いただけるよう、京都学藝衆構想について事例を交えて分かりやすく発信していくことに加え、幅広い世代の方々の興味・関心を惹き付ける魅力的な学び・体験のプログラムを企画・実施し、具体的な取組を通じて実感いただけるよう取り組んでまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

① 世界中からクリエイティブ人材がつどい・交じる「テラス」のまちプロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	14	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分断を煽る風潮もあるが、人口減少の課題に対応するために外国人との助け合いが必要であり、多文化共生、相互理解・尊重を促進する取組を進めてほしい。 ・外国人に関する記述が高度人材に偏っている。日本語学校の留学生や特定技能、家族滞在者など幅広い層の受け入れが今後増える中で、在留資格全体を見据えた中長期戦略、日本語教育や生活支援の強化を都市経営の基盤として明確化すべき。 ・市営住宅に入れない市民が大勢いる。外国人とその家族の住居まで支援すべきでない。 ・多様な文化・母語で教育を受けられる環境の充実は、今後ますます重要な課題であり、まずは京都市内にある複数のインターナショナルスクールへの施設面の支援をしてほしい。一条校の校舎、グラウンド、体育館、プール等の共同利用や、既存施設の提供・賃貸等を活用し、多様な学びの場を支える取組を進めてほしい。 ・音楽や美術、世界中から老若男女問わず日本人と交流し、学び合える空間があるといい。世界平和にも大いに繋がるのではないか。 ・外国人を大量に受け入れていこうという思惑が感じられた。日本人の高齢化や人口減を外国人で補う考えは大変安易であり、京都存続の為の施策が、京都を失う政策に繋がる。外国人移住者や過度な留学生の受け入れには絶対に反対。市営住宅や空き家の活用、インターナショナルスクールの開設は絶対にやめてほしい。 ・日本人同士では新たなものは生まれない。京都は世界でも憧れの地で、外国人を取り込む力は絶大。そのためには市民の英語コミュニケーション能力の大幅な向上が必要不可欠。 ・インターナショナルスクールについては、国策の追随ではなく、必要性をゼロベースで検討した上で、誘致するなら「日本一」あるいは「世界有数」の水準の国際校を作るという明確なビジョンを持つべき。また、市立学校との補完関係を構築し、教育エコシステムの一部として厳密に位置づけ直すべき。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「①世界中からクリエイティブ人材がつどい・交じる「テラス」のまちプロジェクト」において、日本中・世界中から、多彩なクリエイティブ人材を呼び込むため、インターナショナルスクールの開設支援等の受入環境の整備、多様な文化的背景を持つ人々との相互理解・相互尊重等を掲げており、新たに「分野を横断する国際政策を戦略的に推進するための体制を構築」を追記しました。市営住宅については、セーフティネットとしての機能を維持しつつ、空き住戸を積極的に有効活用し、大学等との連携によりクリエイティブ人材や学生の居住、一時滞在、活動の場として提供していく旨を追記しました。</p> <p>京都市は、世界文化自由都市宣言をあらゆる政策の最上位の都市理念としており、京都基本構想において「世界の文化と交流し、新たな文化を創造し続ける」をめざすまちの将来像として掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「ひらく」の視点の下、プロジェクトを推進し、多彩な人々が国内外からつどい、つながり、交ざり合い、そのつながりから新たな価値を創造する「ぬか床のようなまち」として、新たな文化や産業の創出、地域課題の解決等につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

② 公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	16	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の多機能化に合わせ、図書館機能そのものも高める取り組みをすべき。 ・素敵な構想だと思う。現状、自習不可の図書館が多い。自習スペースを設けているカフェ等の民間企業の方が、市民に対して親切と感じる。 ・市役所や区役所、いろいろな場が市民に使いやすくなることは良いことだと思う。 ・是非進めてほしい。特定のNPOだけが活用するのではなく、情報弱者にこそ伝わるような工夫をお願いする。 ・徒歩15分以内に図書館がないところも多く、足を運ぶこと自体躊躇し実効性に乏しい。カフェに行く時間的金的余裕のない市民も多い。行政が本来やるべきことは行政が行うべき。 ・誰でも利用できるソファやベンチの増設、コワーキングスペース、室内広場、図書館などを整備してほしい。 ・図書館の活用が今少しずつ変わりつつあり、大変期待している。古くて窮屈で自習もできない往年の堅苦しさを改革してほしい。 ・公園や地域の集まり等に使える公共空間が欲しい。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「②公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト」において、公園や学校、ホール、市役所前広場をはじめとする公共空間等の活用のあり方を見直し、多様な主体が自分事として公共にかかわることができるまちを目指すとともに、図書館における交流機能を高めるなど多機能化し、第三の居場所、新たなつながりや活躍の機会、価値や気づきに出会える場所をつくっていくことを掲げております。</p> <p>また、京都市図書館については、これからの京都に必要な図書館の在り方、さらには図書館と複合化すべき要素などをまとめたランドデザインの策定に向けた検討を進めるとともに、各図書館の特色を活かした居心地の良い空間づくりに取り組んでおります。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「ひらく」の視点の下、プロジェクトを推進し、開かれたテラスのように誰もが気軽につどい・つながり・交ざり合う機会の創出につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

③ 市民生活と「観光」の両立プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	64	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に迷惑をかける民泊への厳正な指導を求める。一方で地域と共生する民泊もあるため、一律に民泊が悪いというイメージがつかないよう配慮を求める。 ・観光客で大変な思いをしている住民のための取組に、もっと宿泊税を使ってほしい。 ・観光は重要な役割を果たしているが、市民生活との両立があつてこそ持続可能。地域の町並みや人のつながりを大切にしながら、観光の質を高めていく取組を期待する。 ・市民優先価格の実現にめどが立ち、市民からの期待が高まっている。早期実現を目指すべき。 ・市民ではない私でも、両立はもはや不可能で、既に飽和し、京都文化が破壊されてきていると感じる。今こそ従前の何でもウェルカムの姿勢と決別すべき。排他主義ではなく、京都という街、守り継がれてきた文化への敬意を持てる人々と共存すべきであり、それが出来ない方々は京都にいていただく必要が無い。 ・市バスの二重価格は、市民の足とオーバーツーリズム対策に名案。マイナンバーに紐づけするのであれば、住民票を移していない学生や単身赴任者はどうなるのか。また、近隣市町から京都市内に通勤する勤労者の運賃の取扱いはどうするのか。 ・一部の管理不全事例を理由に、適正に運営している事業者まで一律に制限する今回の改正には強い懸念を抱いている。問題がある行為に対して厳格に対応することが本質であり、制度そのものを広く制限することは適切とは言えない。既存・新規を問わず、誠実に地域と向き合う事業者が正當に評価される、公平で合理的な制度設計を強く求める。 ・観光は重要な産業である一方、市民生活との調和が不可欠。観光客数の拡大のみを目標とせず、長期滞在型観光や地域分散型観光を進めることで、市民生活と観光の両立を図るべき。 ・市民サービス向上を優先した内向きの施策であり、ひらかれたまちの基本姿勢にも反すること、マイナンバーカードやスマホを持っていない人や手続き方法が分からない人の負担が増えること、周辺市町村から来る人々の市バスや地下鉄の利用が減ることにより消費や活動が低下すること、市内へ流入するマイカー規制強化やライドシェア拡大、市バスの路線拡大・増便を図るべきであることから、市民優先価格に反対する。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「③市民生活と「観光」の両立プロジェクト」において、観光課題対策、市バス等の市民優先価格の実現、更なる市民サービス向上の検討、民泊規制の見直し・強化、京都ファンの観光客への調査による観光施策の磨き上げ、ユニークベニューの活用等を掲げております。</p> <p>市バス等の市民優先価格については、令和9年度中の実施に向け調整を進めており、市外在住の方のうち高い頻度で京都市内へ来られる方々への負担軽減策も検討しております。また、マイナンバーカードの取得を推奨したいと考えておりますが、お持ちでない方への対応も検討してまいります。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「ひらく」の視点の下、宿泊税も効果的に活用しながら、観光課題対策はもとより、市民の皆様が観光の意義や効果をより実感できる環境づくり、観光客のリピーター化や長期滞在の促進、MICE開催の機会を活かした交ざり合いや新たな価値創造等、プロジェクトを推進し、市民生活と「観光」の調和・両立の実現につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

④ 地域の魅力向上プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	17	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都はエリアごとにまちの景色が変わるので、まちごとの特色を活かしたまちづくりを期待する。 ・過疎地域の消滅は京都市にとって大きな損失であり、京都ブランド確立のためには全体的なバランスを考慮した政策が必要。 ・京都駅の再生と合わせ、二条駅を中心とする副都心エリアの再生も進めるべきである。 ・京都駅の再生が検討されているが、京都市全体、京都府全体のグランドデザインを定めた上で京都駅の役割などを位置づけるべきではないか。 ・各地域に住む人々との対話を大切に、互いに尊重し合い、誰もが気軽に意見を交わせる関係性の中で、社会的弱者（子ども・若者、高齢者、障がい者など）からの意見も取り入れ、街づくりに取り組むべき。そのためには、結節点となる人々が楽しみながら取り組むことも大切。 ・洛西地域の賑わい創出について、公共交通機関の発達や企業誘致も併せて進めた方が活性化に繋がると思う。 ・京都駅前再開発計画に反対している市民がいる。市民の声に耳を傾け、話し合いを尽くして合意点を模索して欲しい。 ・新京都市景観条例と整合性が取れているのか。「伸びしろ」が何か明示がなく、交通結節点等がそれであれば京都駅前でなくともよいし、それは「伸びしろ」なのか。京都駅前開発での高さ規制の変更は、駅ビルから北を望む景観を台無しにする。駅前には集積余地が無い。南部開発政策の大幅な変更は都市計画の失敗を繰り返すのでは。多様な主体と対話・協議を重ねるとしているにもかかわらず、京都駅前の検討において有識者会議のみの開催はいかがなものか。 ・解決すべき問題として、「洛西ニュータウン」の人口が10年後（R17年）には、さらに半減することが予想される。直ちに処方箋が必要だが、緩やかな増加傾向にある「千里ニュータウン」と比較し、必要不可欠な鉄道インフラが整備されていない点が挙げられる。上里、大原野などの洛西ニュータウン周辺の地域でも、阪急バスが廃止されるなど、公共交通サービスがなくなり交通問題を抱えている。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「④地域の魅力向上プロジェクト」において、次期都市計画マスタープランに基づくまちづくり、景観政策のさらなる進化、京都駅前の再生、地域活性化プロジェクトの推進等を掲げており、新たにそれぞれの地域の豊かな個性、まち柄を活かしたまちづくりを進めていくこと等を追記しました。</p> <p>京都駅前の再生については、「ビジネス・交流の創造拠点」としての将来像や実現方策についての有識者会議での検討やパブリック・コメントで頂いた御意見を踏まえ、京都の玄関口にふさわしい駅前となるよう検討を進め、着実かつ迅速に取り組んでまいります。また、京都駅前だけでなく、二条や山科のサブゲートとしての活性化など様々な拠点の将来像について、次期都市計画マスタープランの見直しの中で検討してまいります。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「ひらく」の視点の下、「景観」、「住環境」、「都市機能」のバランスを考慮し、守るべき点と交通結節点等の伸びしろによるメリハリを意識したまちづくり、地域の特性に応じたきめ細やかな景観形成、京都駅前を京都の玄関口にふさわしいエリアへと再生するための取組等、プロジェクトを推進し、市内各地域において、それぞれの地域資源等を活かした新たな魅力や賑わいの創出につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

⑤ 京都ならではの交通ネットワーク形成プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	28	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関が不便な地域の住民のために、地下鉄の拡充と私鉄への拡充要請を求める。 ・洛西地域での自動運転バスの取組について、桂坂地区も含めた路線で運行してほしい。桂坂にも持続可能な公共交通ネットワークが必要。 ・京都に憧れて住んだが、バス重視の複雑な交通網と混雑、駅の遠さに失望する。会員制で構わないので、主要施設を巡るコミュニティバスを導入し、地元住民にとって住みやすいまちづくりを行ってほしい。 ・洛西ニュータウンでの自動運転バス実証実験を高く評価し、早期の実装を強く期待する。 ・田の字エリアや観光名所の多い地区では、仮に幹線道路であっても、減車線・歩道化の徹底、市バス専用レーンへの割り当て、路面電車復活を。 ・街の南北に東西を結ぶ交通手段がほとんどない。狭い道が入り組む市街地において交通手段をバスや自動車をメインの交通手段にするのではなくL R Tの導入などを含めて根本的に考えていく必要がある。 ・既存公共交通の維持に加え、MaaSなどデータを活用した新しい交通サービスを導入し、混雑緩和と移動利便性向上を同時に実現することが重要。大学や企業と連携し、京都らしい持続可能な都市交通モデルを構築することを期待する。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「⑤京都ならではの交通ネットワーク形成プロジェクト」において、新たな交通システムを含めた京都の交通のあり方検討、自動運転バスの実証実験の実施やデマンド交通など地域の実情に合わせた交通システムの検討、自転車利用環境の充実等を掲げております。</p> <p>自動運転バスについては、まずは洛西ニュータウンエリアにおいて、令和10年度の実装化を目指します。市内の他のエリアへの展開については、洛西ニュータウンエリアでの取組を踏まえ、検討を進めてまいります。また、京北地域におけるデマンド交通の導入検討を進めるとともに、市民の利便性向上や地域の活性化、交通課題の解決につながる交通施策について、どういったものが京都に相応しく、導入に向けての検討を深めていくべきかを、調査・検討してまいります。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「ひらく」の視点の下、プロジェクトを推進し、市民生活を支え、まちの持続可能性や市内移動の利便性の維持・向上、さらには京都のまちの発展・魅力向上につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

⑥ 「世界に唯一」を目指し、知や技術を創発する企業立地促進プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	10	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都に企業が進出する理由として、世界に通用する京都ブランド・人材確保の優位性・災害の少なさがあるため、補助金だけでなくこれらの魅力を磨いて企業立地を促進すべき。 ・京都市から、大学を卒業した若者が市外に就職していくことをよく聞く。若者に魅力的な働く場があれば、京都に残ってくれると思うので、魅力的な企業をしっかりと誘致してほしい。 ・誰もがあこがれるビジネス都市を目指して、企業誘致を進めてほしいし、京都の強みを活かした分野での産業育成もしっかり進めてほしい。 ・企業だけでなく必要な官庁機関の誘致、移管も必要。官民の垣根を越えるだけでなく、関係府省庁との連携も発展には不可欠。 ・世界に目を向けて企業誘致をがんばってほしい。京都駅前へグローバル企業が立地したいと思えるような高機能オフィスを積極的に誘導すべき。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「⑥「世界に唯一」を目指し、知や技術を創発する企業立地促進プロジェクト」において、国内外の突き抜けた企業の立地や多彩な人材の集積による基盤強化、国内外の関係機関等との連携、国・府等との連携による広域での半導体関連産業やメディア芸術などの産業育成・企業立地の促進、オフィスや民間ラボの開発促進等を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「きわめる」の視点の下、プロジェクトを推進し、誰もがあこがれる世界に唯一のビジネス都市・京都の実現につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

⑦ 世界と社会にインパクトを与えるスタートアップ創出・成長プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	10	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外スタートアップエコシステムとの強力な連携や京都ならではのインキュベーション施設の整備、市内各大学への大学発スタートアップ支援の裾野拡大を推進すべき。 ・京都から生まれた世界的大企業がたくさんあるという背景を踏まえたスタートアップ支援をすべき。 ・スタートアップ事業は、企業をきちんと精査してほしい。外国資本の企業にスタートアップの補助金が流れることがないように、日本企業の支援に限定すべき。 ・京都は文化都市であると同時に、大学や研究機関が集積する知の都市でもある。この強みを活かし、文化・観光・テクノロジーを融合させた新しい産業創出を進めるべきである。例えばスタートアップ支援や大学発ベンチャーの育成など、京都から世界に挑戦する企業を生み出す都市政策が重要である。 ・京都の産業競争力を高めるため「社会人ドクター」の育成を後押しするのがよいと考える。専門家と接点を持ち、異能を企業内に直接輸入できる仕組みで、前提となる知識習得や、学位取得後の製品化・社会実装などの「産業化フェーズ」までを産業支援機関が一貫して伴走する体制を構築したらよい。そのためには、大学、研究・産業支援機関自身の研究能力・機能もより底上げし、企業と一緒に人材育成やリスクリングをしながら「ほんまもん」をつくるのが、京都ならではのオープンイノベーションにつながる。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「⑦世界と社会にインパクトを与えるスタートアップ創出・成長プロジェクト」において、京都の強みである、大学の研究知や高いものづくり技術を活かし、積極的な海外展開を支援するほか、ライフサイエンス等の成長が期待される分野での事業化支援や高度な人材の発掘・育成、ネットワークの構築、地域企業の成長促進等を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「きわめる」の視点の下、プロジェクトを推進し、社会にインパクトを与えるグローバル企業、世界を変えるスタートアップ企業の京都からの創出につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

⑧ 「千年の都から次の千年へ」文化継承・価値創造プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	14	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の継承はもちろん、京都の千年の歴史を、良いこともそうでないことも歪める事無く、子供達にしっかりと伝えていく必要がある。 ・「地域に眠る文化遺産の保全」や「町並み景観の継承」の目標と、貴重な古民家が失われている現実の乖離をどう認識しているのか。価値ある建造物が市場原理だけで取り壊されないよう、行政の強い意志を示すべき。 ・歴史ある京都だが、マンション、歓楽街、古民家の解体等、風情を残すことに無関心。京都の歴史を学ぶような教育システムにすべき。 ・京都の文化は建物や制度のみならず、それを日々支える人々によって受け継がれてきた。文化の担い手が安心して活動できる環境を守ることが、京都文化の持続可能性を支える重要な基盤であると考えます。 ・宮大工や職人の仕事を守り、後継人を増やすためのサポートをしてほしい。ただ外から優秀な人材を集めようとするだけでなく、人を育てる、根付いてもらうことが大切。伝統工芸や職人育成のための補助金制度や賃金アップをしてほしい。 ・文化の力は「変わる勇氣」と「変わらない核」を両立させるところにあり、変わらないことが価値となる場面もあるが、それだけでは「生きた魅力」にはなれない。絶え間ない自己変革を通じてこそ未来の世代に愛される文化へと進化していくのではないか。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「⑧「千年の都から次の千年へ」文化継承・価値創造プロジェクト」において、伝統産業の新たな価値創造等の取組支援、文化遺産の保全に向けた取組充実、伝統芸能など京都ならではの多様な体験を通じた京都の学藝を継承・創造していく担い手・支え手の育成、音楽を通じた交流、文化への投資の呼び込み等を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「きわめる」の視点の下、プロジェクトを推進し、伝統産業や伝統芸能をはじめとする京都の文化芸術等を次の千年につなげるための、文化継承・価値創造につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

⑨ まち中に「学藝」があふれるプロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	10	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人づくりとして、日本文化の発祥地京都を改めて知ること、海外にも発信できる。近年増加している料理教室で清水焼を使用したり、着物体験などを通して、深く文化に親しんでもらうのがいいのでは。 ・KYOTOGRAPHIEのような街並みを最大限に活かしたグローバルイベントは、まさに京都らしく素敵。まち中に「学藝」があふれるプロジェクトは面白いと思う。(銭湯を活かすなど) ・社会を維持するためには、次代を担う子供たち全員が「突き抜けた」人材になる必要はないのではないか。どこかで「全ての」子どもたちが未来の「学藝衆」なんだということを示していただきたい。 ・子供や市民が気軽に安価で文化芸術に触れる機会を増やすべき。 ・市民が改めて京都の歴史や素晴らしさに触れられる機会を創ることが大切。気軽に参加出来ることが必須。 ・京都市立の学校に通わせたいと思わせるための京都文化の体系的な学び、探究型学習の高度化、日本語運用力の強化、国際基準との接続といった独自価値の構築が必要。「文化×日本語×A I×国際コミュニケーション」を統合した新しい言語教育こそ示すべきモデルである。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「⑨まち中に「学藝」があふれるプロジェクト」において、子どもたちの「生きる力」と「創造的な発想力」を養い、グローバルに活躍できる人材の育成、京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながり等を活かした京都ならではの多様な体験を得ることができる環境の整備、まち全体をキャンパスとし、地域活性化や社会課題解決等を通じて大学・学生の学びを深めること等を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「きわめる」の視点の下、プロジェクトを推進し、学問、学びだけでなく芸術・技芸があふれる唯一のまちを目指すとともに、学生の地域への愛着醸成、学生支援の充実等により、市内就職・定住促進、将来的な京都への定着につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

⑩ 市役所・区役所の「つなぐ」機能強化プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	9	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都市役所は他府県からの採用も多く、3年、5年の異動スパンからも、結節点となる人材育成が困難であることを前提に業務構築していかなければならないが、職員の育成方法が示されておらず残念。職員の資質やボランティア精神頼りでは絵に描いた餅になる。区の職員が、地域のことをよく知り、関係性を作っていくことは大事。 ・地域住民の持つ知見や経験を活かす場として、京都市内では大学がそのハブとしての機能を果たしているように感じる。京都市には公共空間などハード面の提供だけでなく、市役所・職員の持つノウハウやネットワークとともに資金面での援助などが求められていると思う。 ・地域の魅力や課題は、一番身近な窓口である区役所が最も詳しい。区Hubを設置し、更なる機能強化に取り組む、と記載されているが、新たに打ち出している学藝衆構想についても区がハブになって人のつながりを創出するなどの役割に期待する。 ・区役所は手続きが必要になれば行く場所というイメージしかないが、つなぐ機能を強化して結節点になれば素晴らしい。人が集うにはきっかけが必要なので、子育てや防災など、多くの人に関心を持ちやすいテーマを入りに、今まで単発で終わっていた催しを継続的な人のつながりに結びつけていく仕掛けを考える必要があるのではないか。 ・京都人には大きな祭りより小さなコミュニティが向いていると思う。ただ、小さくても「多様であること」はとても大切。「子供のための」「若者のための」「シニアのための」ではなく、それらが安心して混じり合える時間や場所が現代にはとても必要だと感じている。京都の街は多面的で捉えがたい。小粒の活動を見出し、つなげ、横串さしてくださる市役所職員の活躍を期待する。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「⑩市役所・区役所の「つなぐ」機能強化プロジェクト」において、組織間の垣根を越えて、地域における多様な主体をつなぐ「結節点」として、区地域コミュニティHub（区Hub）を設置した区役所・支所の更なる機能強化のほか、高齢者の社会参加の支援やあらゆる世代の交流の促進等を掲げております。新たに区が積極的に現場のニーズを把握し、それを基に区役所と本庁が垣根を低くし、共に考え、その意見を幅広く展開する旨を追記しました。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「つなぐ」の視点の下、職員が現場に出て地域のニーズをしっかりと汲み取り、政策を磨き上げ、市民の皆様が政策の効果を実感できるよう、プロジェクトを推進し、出会いと交ざり合いによる「居場所」と「出番」の創出、持続可能で多様なコミュニティ形成の支援につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

⑪ 地域の「絆」で支え合う子育て応援プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	14	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山科駅に整備される子ども向け複合施設を評価。また、市役所や洛西支所にある屋内子どもスペースは素晴らしく、拡大等を検討するべき。 ・若者世代への具体的な戦略が少ない。税収を見込めるファミリー層を増やすべきだが、現状では、高額過ぎて一般市民の若者世代が利便性の良いところに住宅購入できないため、海外からの投資目的のマンション購入を規制するか、若者への補助金を作るか、早急を実施すべき。 ・京都市も第2子からではなく、大阪市のような保育園無償化を努力して早急を実施すべき。 ・重視したいのは、住民減少への実効策と都市の静謐維持。若年・子育て世帯の定住を最優先に、住宅確保（家賃負担軽減・空き家活用の市民枠）と通勤通学の移動時間短縮を一体で進めるべき。 ・中高生が家でゲームするばかりにならないよう、遊べる公園を増やしてほしい。フェンスで囲われた広い公園でさえ、中学生以上の球技は禁止と書かれた看板がある。 ・子供達がスポーツチームに入会せずとも、サッカーや野球などができるネットやフェンスを完備した運動場の開放、無料イベントなど行ってほしい。 ・子育て環境日本一とうたうが、現実には土地の高騰により市内で家を確保できず、子育て世代がどんどん流出している。生活基盤が安定しないと子育てはできない。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「⑪地域の「絆」で支え合う子育て応援プロジェクト」において、第2子以降の保育料無償化の実施、子ども医療費支給制度の充実、若年・子育て世帯の定住・移住促進、公園の魅力向上や子ども・若者の「居場所」と「出番」の創出等を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「つなぐ」の視点の下、プロジェクトを推進し、地域の絆や包摂性を大切にして、つながり、支え合いにより子育て環境を充実し、子育て世帯の経済的負担を更に軽減することで、もっと子育てがしやすくなり、若年・子育て世帯から選ばれるまちの実現につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

⑫ 京都固有の町並みを次世代に「つなぐ」プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	14	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市は町家保存のための助成金、借上制度やマッチングを増加させる方針だが、高容積のビル建替えによる金銭的メリットに負けることは自明。観光資源を護るための世界標準であるTDR（開発権移転）の導入が必須。五条通り以南などを増容積地区に指定することで現行の高さ規制緩和にも資し、TDRの寺社地適用で寺社を市政に巻き込む契機にもなる。 ・京都の象徴である京町家の減少を憂いており、さらなる具体策と補強が急務。例えば「民泊化」により「暮らし」の場から「宿泊施設」へ変容している現状が、本質的価値である「生活文化の継承」を損なっていないか、より踏み込んだ実態調査・分析を求める。また、京町家の保全・活用を支える人材を、文化財マネージャー等に限定せず、活用アイデアを持つ起業家や地域の担い手など、より広く市民から発掘し、「出番」を持てる人的支援の枠組みを大胆に拡充してほしい。 ・高層建築物は引き続き制約し、景観を守ってほしい。 ・空き家の整備、町家の再生にどんどん取り組んで古き良き日本文化を守っていただきたい。 ・厳格な景観規制が鉄道の地下化を強いて、高コスト構造が交通網の拡充を阻み、慢性渋滞や混雑の解消を遅らせている。また、高さ制限による集積の欠如が人口密度を低下させ、インフラ需要を減退させている。主観や情緒に左右されやすい「景観」という概念を、都市の利便性や持続可能性の観点から再定義すべきであり、さじ加減一つで都市成長を阻害する現状の運用について、抜本的な見直しを提言する。 ・“京都固有の町並み”に、祇園祭の山鉾巡行の山や鉾を出すお町内が考慮されているのか気がかり。場所によってはすでにホテルやマンションが林立し、“町並み”とは言い難い状況にある。とはいえ、京都固有の祇園祭・山鉾巡行の、その担い手が住まう山鉾町にある京町家（町会所も含めて）に備わる、このエリアの「生活の文化を紡いできた京町家」という点は次世代に伝えたい。“町並み”の定義から外れるものが、一律に切り捨てられることのないよう切に願う。 ・京町家を「現状地でそのまま保存する」という前提を見直し、①都市全体の競争力向上、②柔軟な土地利用、③建物自体の保存を求める層への対応を両立させることを可能とするため、活用を見込めない場合は撤去・高機能建築物への転換の誘導、活用する場合も「移築」という選択肢を制度的に整えることが重要である。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「⑫京都固有の町並みを次世代に「つなぐ」プロジェクト」において、京町家を保全・継承するための仕組みの強化、景観政策のさらなる進化、民泊規制の見直し・強化、鴨川・高瀬川エリアの魅力向上等を掲げております。</p> <p>令和8年度は、京町家の保全・継承に向け、改修や維持管理等の経済的負担に対する支援を大幅強化するとともに、景観・まちづくりセンターの機能・体制を強化してまいります。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「つなぐ」の視点のもと、プロジェクトを推進し、京都固有の町並みを次の世代に継承するとともに、その魅力の向上につなげてまいります。</p>

Ⅶ リーディング・プロジェクト

⑬ 「山紫水明の都」ならではの生物多様性・未来継承プロジェクト

(御意見要旨)	(件数)	
(1) プロジェクトに対する意見	6	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キラキラしたイルミネーションよりも自然の空気感が似合う。人工物よりも自然に目を向けたまちづくりをしてほしい。 ・「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」は必要性が理解できない。負の遺産になるのでは。 ・山紫水明の京都は、自然の魅力に溢れている。動物、植物、水などの京都の貴重な魅力がしっかり市民に伝わるように取り組んでほしい。 ・更なる循環型社会推進のため、サーキュラーエコノミーはこれから重要となる取組。京都が先導するくらいに、しっかり取り組んでほしい。 ・子供の頃からの環境教育、学習をしっかり進めて、意識付けをしないと、大人になってからはなかなか取り組もうという意識が生まれない。楽しいと感じられる取組を進めてほしい。 ・ビジネスでも勝負できるポテンシャルがありながら、自然を身近に感じられるのが、京都の唯一無二性だと思う。都市空間の中の生物多様性のようなテーマ設定もおもしろいのではないか。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>「⑬「山紫水明の都」ならではの生物多様性・未来継承プロジェクト」において、生物多様性を結節点とした京都への愛着とまちの魅力の向上、サーキュラーエコノミーへの移行の促進、環境教育・学習の充実、環境保全に関わることの楽しさやメリットを感じ、前向きに取り組んでいただくための取組等を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、「つなぐ」の視点のもと、脱炭素、資源循環とともに三位一体でプロジェクトを推進し、京都の文化や暮らし・営みの根底を成してきた生物多様性の恩恵の未来への継承につなげてまいります。</p>

VIII 政策編

政策編全般

(御意見要旨)	(件数)	
(1)政策編全般に対する意見	7	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化・産業振興は暮らしや子育てと一体で進めるべき。地域で働く大人を子どもが身近に感じ、多様な人が役割を持つ包摂的な仕組みがまちの活力につながる。自然・景観と調和した住環境を守りながら地域経済が持続する政策を期待する。 ・できるだけ実施時期を示して取り組んでいこうとする姿勢は誠実であり、賛同。 ・専門的な取組（一部の特別な職や状況の人がすること）と、ボランティア的な取組が乱立していて、まとまりがないように感じた。 ・政策が羅列されているだけで何が目玉なのか分からない。優先度を5段階評価のいくつなどの見せ方を工夫してはどうか。 ・SDGsに掲げるゴールとは日本ではあまりにも商業化してしまったため、掲げれば完結したような感覚で使っていないか。SDGsは目指すべき前提として捉えるもので、無理に関連付ける必要があるか疑問。 ・高齢者に向けた政策が少ないのではないか。 ・現実的に進学・移住の理由は、進学したい大学や希望する職の有無であり、進学・移住定住に結び付けるには、大学の魅力や国際競争力向上、産業誘致や雇用創出、都市基盤への継続的投資、若者世代が暮らしやすい環境づくりといった選ばれる都市条件を整備することが必要である。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>戦略の改定に当たっては、「市民生活第一の徹底」を基本姿勢に、京都基本構想の策定を受け、「京都の本質的な価値・魅力」を未来に継承、さらに高める視点を特に重視し、政策集において、京都の交通のあり方の検討などの23の取組を新たに加えました。また、取組の実施時期について、【R8・R9】から、各年度の実施見込みを表す【R8】と【R9】に改めてより明確にし、毎年度の予算編成で推進事業を定め、市会との議論を通じて着実に推進してまいります。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、基礎自治体として、福祉・健康・医療や教育・子育て環境の充実、包摂性の高いまちづくり、京都経済を支える地域企業等の下支え、市民のいのち・暮らしの安心安全など、市民生活第一を守る政策を基本に据えたうえで、都市全体の魅力や活力を向上させ、生まれた都市活力を市民生活の豊かさにつながる更なる好循環を創出するため、着実に取組を進めてまいります。</p>

Ⅷ 政策編

1 京都のまちが紡ぐ文化の力を活かし

「新たな魅力・価値を創造し続けるまち」

(御意見要旨) (1)文化、京町家に対する意見	(件数) 23	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都の歴史、文化、町並みの象徴である京町家の保全・継承」の位置付けは本当に良い。都市の文化を形成する建物、景観、自然風景は大事であり、京都市の個性は守ってほしい。 ・京都の強みはアカデミー、イノベーション、文化だが、京都の価値を上げるため、特に文化の世界への発信は力を入れてほしい。 ・京都は新しいもの、特に他県からの文化を取り入れることを頑なに拒否する傾向がある。マンガやイラスト等のARTもそう。幅広く、若い世代を受け入れるべき。 ・国のあり方に注目が集まる今、オール京都で双京構想をアピールし、機運を高めるべきではないか。 ・柱1「文化芸術」はイベント偏重を避け、修繕・防火・人材育成へ重点化すべき。 ・「数字」だけを指標にして文化施設の価値を測るのはやめてほしい。長い尺度で「市民が文化的な事柄に日常的に触れられる環境」があり続けることが最も大切なことと思う。現場のスタッフを育てなければ文化の芽は枯れる。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱1（1）から（3）において、誰もが文化に触れる機会の創出と文化の継承・創造の基盤整備、文化を基軸とした価値創造、京都の歴史、文化、町並みの象徴である京町家の保全・継承を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双京構想に向けた取組の推進 ・国内外のクリエイティブ人材の呼び込み ・国際的なアートイベントの開催 ・文化遺産の保存と活用の好循環の創出に向けた支援の充実と担い手・支え手の裾野拡大 ・京町家の維持管理に要する所有者の負担軽減や社会全体で保全・継承する取組の推進 <p>等に取り組んでまいります。</p>

(御意見要旨)	(件数)	
(2)観光に対する意見	35	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・均一系統バスの「前乗・後降」に賛成。 ・観光客による公共交通機関の混雑対策として、市民と観光客のバス分離など対策が必要。 ・白タクの禁止と、市外から市内へ乗り入れる観光バスに認可・課金制度を導入してほしい。市バス・地下鉄の一日券の廃止（交通系 ICカードまたは現金のみ）。主要観光地にはバスではなく、地下鉄経由とすれば、地下鉄乗降人数が増えるのではないか？ ・国内の観光および日本を守るため、国外からの訪問者へ日本のルールを周知することが課題である。また、併せて自国民も律しなければならない。 ・バスの前乗り変更はベビーカーや車椅子が不便にならないか。それなら烏丸線だけでもよいので、全駅にホームガードをつけて欲しかった。また、一部のバス車両にスーツケース用のスペースが取られているが、スーツケース可能と誤解されやすく、座席の多いデザインに戻した方がいい。 ・大きな荷物を市営の交通機関に持ち込む場合は、ひとつにつき一人分の運賃を支払うようにしてほしい。 ・観光依存しない街へ。まず閑散期においては市民は地下鉄無料、市バスの乗り継ぎ無料を実施すべき。 ・市バス・地下鉄の決済手段はQRコード決済も使えるようにしてほしい。地下鉄は顔認証改札で市民は割引価格で乗車をできるようにしてほしい。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱 1（４）において、市民生活と「観光」の両立を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス・バス無料乗継などの運賃体系のあり方や二条城等の公共施設の「市民優先価格」など更なる市民サービス向上の検討 ・観光特急バスの利用促進や均一運賃系統における「前乗り後降り方式」の導入など市バスの混雑対策の実施 ・デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済の導入など、市バス・地下鉄のキャッシュレス化の更なる推進 ・「ツーリストシップ」の周知による観光マナーの啓発及び観光関連事業者・従事者等、観光客、市民の京都観光にかかわる三者がお互いに尊重し合う関係づくりの推進 ・時期・時間・場所の分散化の推進や観光ハイシーズンの休日におけるマイカーの乗り入れ抑制・制限の検討等に取り組んでまいります。

VIII 政策編

2 居場所と出番により、つながり・支え合う

「包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるまち」

(御意見要旨) (1)コミュニティ・包摂性・共生社会に対する意見	(件数) 27	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会活動の情報伝達において、紙の回覧板からの脱却とSNS導入など電子化してほしい。自治連合会と町内会のやり取りの電子化、平日の昼間以外の活動形式の検討を区役所と協力して進めてほしい。 ・地価が高まり住みづらさを感じる人が多い中、適切な維持管理やリノベーションにより、市営住宅の魅力を高めてほしい。 ・交通ルールや治安の悪影響の懸念から、これ以上移民を増やさないでほしい。安心して子育てできる街になれば子供を産む家庭が増えるのでは。なぜ日本人が不安に思いながら生活しなければいけないのか。 ・ドッグフレンドリー、犬同伴OKの施設や場所を増やしてほしい。 ・世界的な大戦から80年以上が経過し、ニュースでも軍事的衝突を毎日のように見聞きする。今こそ戦争体験や平和の尊さについて、特に将来を担う子ども・若者に継承する取組が必要。 ・人とのつながりを広げて、世界の平和に貢献していくという姿勢は大事。京都市は平和都市として、具体的に平和に関する取組も盛り込んで、しっかり推進してほしい。 ・住民は、まち作りの担い手であると同時に勤務先・保護者としても役割が増加している。町内会が担ってきた役割を行政が積極的に担うべきであり、今まで通りの役割を求めるなら有償にすべき。 ・京都のまちこそ、女性がもっと表に出てほしい。市長のSNSでも、登場人物は圧倒的に男性率が高い。ぜひパリティを実現してほしい。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱2（1）において、つながり・支え合いによる地域コミュニティの活性化と持続可能な地域づくりを掲げております。また、同（4）において、一人一人が尊重され、誰一人取り残されない共生社会の推進を掲げております。新たに同（4）④において、「戦争の体験・記憶を次代に継承する取組や平和の尊さを見つめ直す機会の拡充」を追記しました。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会・町内会の負担軽減等に向けた新たなプラットフォームの構築 ・市営住宅の計画的な再生・マネジメントの推進 ・女性の活躍促進 ・地域における更なる相互理解・相互尊重を育む取組の展開による多文化共生の推進 ・人と動物が共生できるまちづくりの推進等に取り組んでまいります。

(御意見要旨)	(件数)	
(2)福祉・健康づくり・医療衛生・スポーツに対する意見	15	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護事業は非常に閉鎖的で顔なじみ以外の対応は遠巻き。介護用品の見本のバリエーションが神戸より少ない。障害者等の助けが必要な方へは「何をしてほしい」ではなく「何に困っているか」と聞いてほしい。認知症サポーター養成もあまり聞かない。意識改革してほしい。 ・就労継続支援A型事業所の求人が減少しており、障害者が働くことが難しい。精神障害や発達障害を中心に受け入れる事業所ばかり増え、私のような視覚障害者では、「やってもらえる仕事はない」と言われたこともある。しっかり働きたいと思っているが、働ける場が限られている。どうかしてほしい。 ・ケアラー支援について、区役所が結節点となり、どのような体制を構築するのか、これまでの課題を踏まえた議論は公にすべき。ケアラー全般に総合的に対応する部署を作るにしても、相談を受けた部署が、横断的に横串を刺し、最後まで責任を持ってコーディネートする体制が必要。関係機関が集まり、話し合いで決めていくにしても、責任の所在が不明にならない整理が必要。 ・家族以外で、高齢者、障害者や子どもたちと関係性を持ちつつ、日常生活において見守っているのは、学芸者ではなく、普通のエッセンシャルワーカーの人達。重層的支援体制こそが区の結節点としての極みであり、そのことをもっとしっかり打ち出すべき。 ・スポーツには全く力を入れないと感じた。京都で活動するプロスポーツチームをはじめ、スポーツ団体も色んな地域貢献をしており、京都のまちの、大切な要素のひとつではないのか。その存在も活動も当たり前ではないが、関心も敬意も感じられず残念。そんなまちにスポーツは根付かず、廃れていくのではないかと懸念する。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱2（1）において、福祉・健康づくり・医療衛生の一体的な推進を掲げております。また、同（3）において、スポーツによる人づくり、健康づくり、地域づくりを通じた心豊かな社会の実現を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重層的な支援体制による支援の推進、地域社会全体でケアラーを支えるまちづくり ・障害のある人の社会参加の促進 ・認知症の高齢者が安心して暮らせる見守り体制の構築や、要支援者等の高齢者の生活を支えるボランティア活動への支援など、医療・介護・生活支援サービスが切れ目なく提供され、住み慣れた地域で互いに支え合い、いきいきと生活できる地域づくり ・スポーツ団体の活動支援、プロスポーツチームと連携した取組の推進など、スポーツを活かした地域活性化の推進等に取り組んでまいります。

VIII 政策編

3 京都の伝統・知恵・イノベーションの力により

「都市の活力と成長を支える産業が育つまち」

<p>(御意見要旨) (1)京都経済の持続的発展・成長、商業振興などに対する意見</p>	<p>(件数) 17</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百貨店の京都展でもっと紹介するなど、京都の和菓子の魅力をより発信してほしい。 ・インバウンドだけでなく、大学のまちなので、大企業誘致やスタートアップ事業の支援等についての取組効果をもっと市民に見えるようにしてほしい。 ・里山の整備、地域の農業、漁業、畜産、京都市で地産地消をもっと促せないのか。 ・中小企業が長く営業できるようサポートしてほしい。京都に行っても買い物は大型商業施設しかないとなっては困る。 ・スタートアップの前のセットアップ(準備)、起業に失敗した際のセーフティネット、そして再度の挑戦(リカバリー)のための制度支援も行うべき。 ・京都経済の根源的な弱点は、都市内部で回転する資本の規模が小さいことであり、都市の稼ぐ力、企業が根付く環境、学生が残る雇用基盤、外から資本を吸い込む力、これらを都市計画の中心に据える必要がある。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱3(1)から(4)及び(6)において、地域企業・中小企業の持続的発展・成長の支援、伝統産業や商業の振興、食文化の継承・発展、スタートアップ創出・成長促進、成長産業の振興、企業立地の推進、農林業の成長産業化・持続可能な経営の支援、都市機能の集積・充実を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンイノベーション環境の創出 ・学生の市内就職の促進 ・地域企業の経営基盤の強化 ・商店街等の振興 ・中央卸売市場を核とした安心・安全な食材の安定的な流通 ・スタートアップ企業の支援強化 ・大学発ベンチャー・スタートアップの創出 ・突き抜けた企業立地の促進 ・森林整備の加速化 <p>等に取り組んでまいります。</p>
<p>(御意見要旨) (2)大学に対する意見</p>	<p>(件数) 4</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包摂性の理念には賛同するが、外国人政策が抽象的で実効性が見えにくい。日本語によるコミュニケーションが最大の壁であり、留学生と共に就労者や家族への日本語教育・学習機会などの拡充を具体的施策として明示し、多文化共生の中心に位置づけてほしい。 ・京都が大学のまちであり続けるために、市としても取り組むべき。 ・私大の4割以上が2040年度に経営破綻の危険性があると文科省が推計する中、大学のまち京都のあり方が問われている。 ・政策集の柱3(3)④の取組について、留学生の起業支援は反対。留学後に住んでから起業すべきであり、補助を受けて留学先で起業するようなビジネスは、短期的な利益目的になる。起業したくても起業できない京都市民は大勢おり、外国人ではなく市民を支援をすべき。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱3(5)において、大学のまち・京都の強みを活かした都市の活力の創出を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップビザ制度を活用した留学生の京都での起業支援 ・京都の若者の起業家精神を醸成し起業人材を育成するプログラムの展開 ・日本語教育の拠点の充実など、留学生等が安心・快適に暮らし、活動できる環境づくり ・まち全体をキャンパスに大学・学生と地域等が連携した地域活性化や社会課題解決に向けた取組の推進 ・学生への支援などによる愛着醸成と市内定住の促進 <p>等に取り組んでまいります。</p>

VIII 政策編

4 京都ならではの学びと子育て環境を通して

「未来を担う子ども・若者を社会全体で共にはぐくむまち」

(御意見要旨)	(件数)	
(1)教育に対する意見	17	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生のクラブ活動活性化は良いが、教職員の長時間労働という解消できない課題がある。顧問教員の負担軽減を念頭に、民間コーチや地域ボランティア導入のあり方について早急な検討が必要。 ・堀川高校などの学校教育成功モデルを他の学校にも展開し、京都市の学校教育全体を底上げすべき。 ・学校運営に地域を巻き込むことで、教員の負担とストレスも軽減される。また、高校は土地勘が薄れるが、管理者はできる限りその地域に居住すべき。教員の不祥事を正す前に、生徒の質の低下が、家庭教育にある事を再度見直す意味でも、地域間のコミュニケーションが必要では。 ・時代を牽引する特異な能力を持つ発達障害のある子供たちに正しく接することの出来る教師が必要。発達障害を育てる行政の仕組みや施設の廃止が目立つので、方針転換が必要。 ・デジタル教科書に依存し過ぎず、紙ベースでの教育もしっかり残してほしい。 ・給食センターの一元化より各校で出来立ての給食を届けてほしい。老朽化した公立校校舎の改修・建替を行ってほしい。 ・教育現場は退職者や休職者の補充が十分にできないまま運営せざるを得ない状況となっている。一方教育内容は学習指導要領の実施が強く求められており、教職員および福祉分野の職員は低賃金と長時間労働で創造性のある仕事ができないでいる。子どもの不登校もこうした実態を背景に増え続けている。この改善なしに、教職員の創造性や自律的な労働は生まれず、真の働き方改革には至らない。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱4（1）において、子どもが興味や関心を高め夢中になれる教育の推進を掲げております。頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校づくり・地域ぐるみの教育の推進 ・発達障害など支援が必要な児童生徒への取組の充実 ・京都の食文化を活かした献立の充実等京都ならではの全員制中学校給食に向けた取組の実施 ・中学校部活動の地域展開の推進 ・誰もが安心・安全で快適に過ごせる学校施設の環境整備の計画的推進 ・デジタル学習基盤の効果的な活用など教育DXの推進 ・多様な主体との連携による教職員等の配置充実や処遇改善の実施、働き方改革の推進等に取り組んでまいります。

(御意見要旨)	(件数)	
(2)子育て環境・施策に対する意見	20	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能や銭湯に行く余裕が生まれるよう、保育料や授業料を安くするなど、子育てしている人が住みやすいまちにしてほしい。 ・ヤングケアラーなどについて、具体的に何をするのか記載すべき。虐待通報への対応は、児童相談所の負担が重く、見直すべきと第三者評価でも指摘されていたが見直されているのか。ヤングケアラーを含め、虐待通報に対して短絡的に児童相談所が動くという運用は見直すべき。 ・暑さ寒さが厳しい季節での遊び場がほとんどないため、室内遊び場の増設を希望する。病児保育についても、感染症流行時には予約が取れないため、市営保育所内に併設するなど、年間通じて受け入れ可能な施設が必要。 ・子育てにおいて京都市だけ医療費が無償化されていない。いち早く対応をお願いしたい。 ・小中学校の環境整備、子ども医療費の充実、保育環境の向上は急ぐべき。また、元ラクト健康・文化館について早期に住民の声を聴いてほしい。 ・保育士・介護士の給与増加にも取り組んで欲しい。子どもを持つ人は家族を養っていける給与を得られたら学校のことを考えて簡単には引っ越さない。 ・子育て環境の整備は重要。市内に若い夫婦が家を持ってないと街は空洞化していく。相続税や家賃補助など打てる手は全部打つべきであり、インバウンド誘致のための宿泊施設ばかり増やしてはならない。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱4（2）において、子ども・若者を誰一人取り残さない切れ目ない支援の推進を掲げており、新たに同（2）⑤において、「新たな児童相談所の設置など、児童福祉センターの機能強化」、同（2）⑧において、「幼児教育・保育を学ぶ学生が保育現場に触れ、実践的に学ぶ機会の創出」を追記しました。</p> <p>また、同（3）において、子育て世帯をはじめ市民にとって魅力あるすまいの流通を掲げており、新たに同（3）③において、「外郭団体等の政策連携パートナーと連携し、空き家のサブリース等による子育て世帯に手が届きやすい賃貸住宅の供給促進」を追記しました。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園における第2子以降の保育料無償化 ・府市協調による子ども医療費支給制度の充実 ・遊び場や活動の場の創出、元ラクト健康・文化館への遊びと学びの拠点複合施設の整備 ・児童虐待やヤングケアラーなど複雑・複合的な課題を抱える子ども等への支援 ・より一層安全で質の高い子育て環境・運営体制の構築、子育て支援に携わる担い手の育成・確保 ・病児・病後児保育制度の安定的な運用 ・若年・子育て世帯の定住・移住促進等に取り組んでまいります。

VIII 政策編

5 豊かな自然・歴史的景観と地域の魅力を活かした

「自然環境と調和する持続可能なまち」

<p>(御意見要旨) (1)環境、森林、農地、景観に対する意見</p>	<p>(件数) 21</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都トレイルの活性化を進めてほしい。 ・鴨川周辺（京都駅～出町柳三角州）の緑化を推進し、自然の中での歴史景観観光の領域を広げてほしい。夏の暑さ対策として、コンクリートよりも緑を増やすべき。 ・有料コンビニ袋をその街の有料ゴミ袋としてゴミ出しに有効活用できる仕組みを、韓国で体験した。新たなゴミを生まない素晴らしいアイデアなので、京都市も導入してほしい。 ・観光地以外(郊外)の不法投棄、ゴミ景観対策が気になる。近所の河川(西羽束師川)はプラスチックゴミが異常に多く流れており、海へ流れていくことを考えると悲しい。河川ゴミは市民では対処できないので、不法投棄させない仕組みづくり、ゴミ拾いイベント化、小中学生への環境教育、ゴミ減量PRなど、市が主導的に対処してほしい。 ・資源循環、各主体が協働して環境保全に取り組む仕組みづくり、野生鳥獣対策は急ぐべき。 ・環境教育の充実が重要だが、市民の意識・行動変容に頼っているだけでは、現在の気候危機に対応できるスピード感での脱炭素化は難しい。現在の社会システムにプラスアルファするだけでなく、システムに組み込まれた問題を抜本的に転換するような、意欲的な制度設計への言及を期待する。 ・京都の魅力は、都市の中に豊かな自然と歴史的景観が共存している点にある。京都の自然環境と景観を未来に引き継ぐためには、それらを維持管理する技術や人材を守り育てていくことが不可欠であり、地域の力を活かした持続可能な景観形成の取り組みの推進に期待する。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱5（1）から（3）において、脱炭素化・資源循環の推進・生物多様性の保全と回復の一体的実施、多面的機能を有する森林・農地の保全・活用・魅力発信、豊かな自然・歴史的景観の保全を掲げております。新たに同（1）⑤において、「本来廃棄される製品に新たな価値を持たせ別の製品として再生させる「アップサイクル」を含む」を追記しました。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック削減及び資源物回収の拡大など、ごみの減量・資源循環の推進 ・環境学習の充実、各主体が協働して環境保全に取り組むための「ひと・しくみづくり」の充実 ・京都一周トレイルの整備 ・野生鳥獣への対策の強化 ・鴨川の河川敷等を活用した魅力ある河川空間の創出 ・質の高いみどりの保全・創出 ・地域の特性に応じたきめ細やかな景観形成のあり方の検討、都市機能の改善・向上と景観の保全の両立を図る景観政策の推進 <p>等に取り組んでまいります。</p>
<p>(御意見要旨) (2)公共交通、多様な主体との連携によるまちづくりに対する意見</p>	<p>(件数) 19</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄のエレベーターを増やしてほしい。阪急烏丸駅東口改札の2か所の階段や、地下鉄四条駅から阪急烏丸駅に向かう階段にエスカレーターを作ってほしい。 ・自転車は車道を走らなければならないが、バスが来ると難しい。自転車の規制が厳しくなるならなお、歩道を走れるところも増やしてほしい。 ・交通のあり方と運賃の在り方検討、地下鉄の安心・安全・快適に利用できる取組の推進は急ぐべき。 ・自転車規則が厳正化するようだが、電動キックボードを条例で禁止できないか？ドライバー目線だが、京都は道が狭いので本当に危険だと思う。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱5（4）において、持続可能な公共交通の維持、多様な主体との連携によるまちづくりの推進を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の交通のあり方の検討 ・自転車利用環境の充実 ・持続可能な市バス・地下鉄事業運営のための運賃のあり方の検討 ・四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター設置など地下鉄駅における更なるエレベーターの増設等、市バス・地下鉄を安心・安全・快適に御利用いただくための取組の推進 <p>等に取り組んでまいります。</p>

VIII 政策編

6 市民のいのち・暮らしを守る

「安心安全で災害に強いレジリエントなまち」

<p>(御意見要旨) (1)危機管理・防災・消防救急体制、防災減災のインフラ整備に対する意見</p>	<p>(件数) 16</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の避難等、福祉避難所の整備や避難誘導が置き去りにになっていないか。防災担当者が障がい者との関わりを持ち、社会的弱者が取り残されないシステムを構築してほしい。 ・農道、林道、里道などの適切な管理は、防災や農林業振興の観点から重要である。 ・道路の整備ができてないところがある。水道管もチェックしているか。国民の声も聞いてほしい。 ・私が所属する地域の消防団員は高齢化、充足率不足で大規模災害時に100%の運用ができない。避難所となる学校には、外国人や町内会非加入の人も殺到するだろう。地域で働くたくさんの外国人を団員として迎え入れて多言語対応、文化や宗教の違いに対応できる機会とたく、ぜひ国籍条項等の改正を検討してほしい。 ・観光客分の災害時の受け入れ施設として、ゲストハウス・民泊・ホテルなどにも耐震等級3の義務化を含めた災害対策までさせた上で工事許可を出してほしい。非常食やトイレなど備えも義務化してほしい。 ・防災の記載が乏しいが、これからの都市計画は減災、備災（事前防災）がテーマになるべき。具体的には、①事前防災教育を小学校のカリキュラムに入れる。②備蓄品を可能な限り揃え、備蓄品在庫量を区民に公表する。③地域力推進室のメンバーが災害時、どこを担当しているかを明記する。④緊急トイレを沢山準備しておく。⑤毎月、小学校の持ち回りで防災教室を開く。⑥大地震がいつ来ても良い状態を目指し、津波被災地域を助けに行く準備も必要。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱6（1）から（3）において、危機管理・防災体制の構築、防災減災のためのインフラ整備・維持管理、消防救急体制の確保を掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域等との連携による災害時の情報共有体制の強化 ・災害用備蓄物資の充実や新たな避難所運営マニュアルの地域展開など、安心・安全かつ快適な避難生活環境の向上 ・宿泊施設等との連携による帰宅困難者対策の推進 ・消防団など地域団体との連携や防災力向上に向けた取組への支援 ・防災教育・防災訓練の実施 ・道路整備や橋りょうの耐震補強等の推進 ・水道・下水道の管路・施設の更新・耐震化等の強化 ・農業用施設の改修・更新等の推進 ・消防団など地域との連携による防火対策の推進等に取り組んでまいります。
<p>(御意見要旨) (2)安心して暮らせるまちづくりに対する意見</p>	<p>(件数) 14</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜道の暗さが防犯上不安。みんなが安心して安全な夜道を歩けるよう、車通りが少なく人気のない場所に、街灯の増設や、より明るい街灯を設置してほしい。 ・行先の目印を大きくする、分かりやすい山道の目印や、危険な階段・進入禁止の場所に目印を設置するなど障がい者・シニア・子供に優しいまちづくりをしてほしい。 ・市民生活と観光の両立には、飲食店のバリアフリー化が不可欠であり、市独自の柔軟な補助制度を設け、スロープ設置や車椅子対応席、トイレの洋式化・拡幅を推進すべきである。また、車椅子で入店可能か、介助スペースのあるトイレがあるかなどの情報発信の仕組みを市主導で整備すべきである。 ・子供達の通学の安全のために、集団登校の実施、場所の確保、通学路の安全性を徹底すべき。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>政策集の柱6（4）において、安心して暮らせるまちづくりを掲げております。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や地域との連携による防犯・交通安全活動の推進 ・地域等との連携による子どもの見守り活動の推進 ・建築物や道路のバリアフリー化など、高齢者や障害のある人をはじめとする、すべての人にやさしい都市環境の整備の促進 <p>等に取り組んでまいります。</p>

IX しごとの仕方改革編

<p>(御意見要旨) (1)しごとの仕方改革編全般に対する意見</p>	<p>(件数) 7</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略を実効性あるものにするためには、行政内部の連携や柔軟な仕事の進め方が重要。市民や事業者との対話を重ねながら、小さな取組を積み上げていく姿勢が信頼につながる。 ・市民のために仕事をしてほしい。 ・「しごとの仕方改革」については、別建てで緊急に押し進めてほしい。ここで分析された内容が今更述べられていることが非常に残念。個々の部署、職員ですぐにでも取り組めることなので頑張してほしい。 ・仕事改革は重視する視点を記載しているだけで、それぞれの取組にどう影響があるのかわからない。具体的な成果を説明してほしい。 ・しごとの仕方改革における、重視する視点について、具体的なイメージがわからない。 ・耳障りの良い言葉が並んでいるが、全く響かない。市役所職員の意識を変えるために、どう教育するのか。外部からの視点を入れない限り、何にも変わらない。 ・京都にある利点をフレキシブルに活かして、施設の多様化に取り組んでほしい。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>単に「重視する視点」を並べるだけでなく、1つ1つの取組について具体的に何に取り組んだのかはもちろんのこと、市役所全体として「しごとの仕方」がどう変わったか、市職員のみならず、市民の皆様にも実感していただけるよう、分かりやすくお示ししていくことが重要と考えております。達成度については、決算時期の報告等のタイミングで、可能な限り数字や定性的にお示しできるよう検討してまいります。</p> <p>また、しごとの仕方改革の取組の実行に当たっては、現場で働く職員の声を聞くことはもちろん、外部の視点として有識者や事業者・団体の御意見、さらにはサービスの受け手である市民のニーズをしっかりと踏まえ、対話と協働を通じて改革を進めてまいります。</p>
<p>(御意見要旨) (2)職員への浸透や実効性の確保に対する意見</p>	<p>(件数) 1</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事でここからどう改善していくか、と思ったときに、なかなかいいアイデアが浮かばない。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>具体的な改革の事例を共有するなど、職員がチャレンジしようと思える環境づくりに努めるほか、幹部職員が率先して、職員が安心して新しいことに挑戦できる心理的安全性の確保をはじめ、職員一人ひとりが存分に能力を発揮できる組織風土づくりを推進してまいります。</p>

IX しごとの仕方改革編

[取組 1] 多様な主体との協働

(御意見要旨) (1)多様な主体との協働全般に対する意見	(件数) 6	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者と共に進める仕事改革はとても良い。有識者の選定は難しいが、京都にずっと住んでいる人と外から来た人を混ぜてほしい。こういったアンケート形式での市民から直接声を拾う取組も良い。 ・京都の都市課題は行政だけで解決できない。多様な主体が参画する「都市経営」が必要。行政がすべてを担うのではなく、民間や地域の挑戦を後押しする「プラットフォーム型行政」へと役割を変革していくべき。 ・反対意見も含め、多様な意見を持った有識者を参加させるべき。 ・有識者との討論等については、個々の専門従事者を参加させるようにしてほしい。 ・各種委員会や専門家委員会において、委員会を秘密会とするのは、特別な例外のみにし、すべて原則に沿って公開すべき。 ・京都のために働いてくれる人にお金を払って働いてもらってほしい。入札だけで業者を決めるのではなく、プランをプレゼンしてもらい、その中から、市民に選ばせたい。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>市職員が机の上だけで政策立案するのではなく、市役所の外に出て現場でのヒアリングや意見交換など積極的に市民や事業者、有識者との対話と協働を通じて創造的な政策を立案できるよう取り組んでまいります。</p> <p>また、こうした対話と協働に当たっては、多角的な視点からの検討を深めるため、幅広い方から御意見や参画を求めるとともに、その議論の過程や結果について公表することで、取組の見える化を進めることが重要だと考えております。</p> <p>外部委託には、入札の他に、民間事業者にプランをプレゼンしていただいたうえで契約相手を決定するプロポーザルの制度も様々な部署において広く活用されています。事業者の提案を市民の皆様を選んでいただく制度は現状持ち合わせていませんが、市民の皆様の声も広く聞きながら、真に京都市の課題解決や魅力向上に資する事業を進めてまいります。</p> <p>なお、事業者からの提案にあたっては、公民連携による社会課題の解決に向けた提案を募集する「KYOTO CITY OPEN LABO」などの取組も活用し、引き続き事業者の皆様積極的に市政に参加いただく環境づくりに努めてまいります。</p>
(御意見要旨) (2)マーケティング、プロモーションに対する意見	(件数) 3	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング・プロモーションの強化については、地方自治の本旨をミッションとし、「市民」が大事にしている価値を把握する中で、「住んでよし」「来てよし」の京都市を市民と創造するための共感力・事業構想力・協創力を持ち、市民目線で法人理事者に提案できる力を強化してほしい。 ・市政広報に当たって、もっと地元メディア等のマスコミを活用すべき。 ・ネットやSNSを活用して、若者向けの情報発信にも積極的に取り組むべき。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>多様な主体との協働を進めるためには、市の取組はもちろんのこと、課題認識や施策の考え方を市民の皆様へしっかりとお届けし、対話を促進することが重要であり、目的や対象に応じて最も効果的な手法を活用することにより、着実に一人一人に届くよう取り組んでまいります。</p>

<p>(御意見要旨)</p> <p>(3)外郭団体等との政策連携強化に対する意見</p>	<p>(件数)</p> <p>2</p>	
<p>(主な御意見)</p> <p>企業が求めるニーズに対応しつつ、相応の費用負担を前提とした、第3セクターやNPO法人などの体制を充実強化すべきである。</p> <p>事業者や関連団体が京都市を信頼し協働できるためには、単に「連携を強化」だけでなく行政の負担についても明記するとともに、実効性を担保すべき。</p>		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>出資等に関わらず市や団体独自の事業実施・施設運営により市民サービスを提供するなど、市と一体となって事業を推進している団体を市役所グループ（事業協力団体）に位置付け連携強化を図ってまいります。</p> <p>また、そうした協働の推進に当たっては、行政と事業者双方の役割と負担を明確化し、実効性を確保することが重要と考えております。職員の意識改革も徹底し、信頼される連携を目指します。</p>

IX しごとの仕方改革編

[取組 2] 公共資産・公共空間のフル活用

(御意見要旨) (1)地域に求められる政策ニーズとマッチした既存ストックの活用プロジェクトに対する意見	(件数) 4	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共空間、特に活用未定地の暫定活用に期待する。 ・京都市立芸術大学跡地の活用を早期に進め、現状や今後の活用方針について市民へ丁寧な説明とホームページでの情報公開を求める。 ・府市の持っている土地を有効活用する方法を。大きい建物を造るのではなく、まちにあった方法で活用すべきで、賃貸に出すなりして、財源確保すべき。廃校になった小学校を正常な価格で払い下げ、民間に活用させるべき。売却しないのであればきちんと活用してほしい。 ・「公共資産・公共空間のフル活用」で「京都市全体の視点での検討に至っていない」のはもったいない。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>新京都戦略におきまして、地域に求められる政策ニーズとマッチした保有資産の活用プロジェクトの推進を掲げ、全庁横断的な推進体制の下、公共資産・公共空間のあり方をより最適なものへ見直していくこととしております。引き続き、資産が所在するエリアの現状やまちづくりの方向性、政策ニーズを起点とした戦略的な活用を進めてまいります。</p> <p>京都市立芸術大学跡地につきましては、民間活力により、洛西地域、西京区の活性化、ひいては京都全体の活性化に寄与する活用を図るという方針のもと、有効活用に向けて取り組んでおります。跡地活用に向けて実施した土壌調査の結果、2区画が要措置区域に指定されたことから、現在、汚染除去等計画の策定を進めているところです。引き続き、跡地活用に向けた取組を進めるとともに、市民の皆様への丁寧な説明に努めてまいります。</p> <p>本市では、公有地の活用を検討するに当たっては、地域の活性化、魅力あるまちづくり等、市全体に効果が波及する活用を図っていくことが重要だと考えております。したがって、まずは、公用・公共用の用途で政策効果を重視した活用を検討し、そのうえで、十分な活用が見込めない資産については、民間事業者等の力も得ながら財源確保と政策効果の発現の両面から活用することとしています。御意見を踏まえ、引き続き府との連携も深めながらより一層戦略的な活用を進めてまいります。</p> <p>また、小学校跡地の活用については、学校教育活動や地域コミュニティ活動に配慮しつつ、本市の活性化や地域振興に資するよう、最大限の有効活用を図っています。活用にあたっては、本市事業や公共的・公益的な団体による事業のほか、民間事業による活用も対象とし、よりよい活用が行えるよう、取組を進めています。</p> <p>地域に求められる政策ニーズとマッチした保有資産の活用プロジェクトの推進を掲げ、全庁横断的な推進体制の下、公共資産・公共空間のあり方をより最適なものへ見直していくこととしております。引き続き、資産が所在するエリアの現状やまちづくりの方向性、政策ニーズを起点とした戦略的な活用を進めてまいります。</p>

(御意見要旨) (2)管理運営手法の点検に対する意見	(件数) 1	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <p>・公共資産・公共空間のフル活用において、市民と共に活用できる仕組みの検討とは具体的には、公立学校の図書室の平日夜間や土日祝の一般市民への開放等を指すのか。また、新たな公民連携手法の調査・研究とは、大学等との連携を指すのか。</p>		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>(市民と共に活用できる仕組みの検討) 公共資産・公共空間は、市民共有の財産であることから、公平・公正な利用は担保しつつも、市民自身がより積極的に活用できる環境を目指し、時代とともに移り変わる市民ニーズを捉えながら、改善を重ねていく必要があります。今後、市民や事業者等のニーズを踏まえた運営ルールの見直しによる利活用の促進や、ときには市民自身に運営へ参画いただくことにより施設機能の向上や運営の効率化を図る等、市民協働や公民連携の推進による、新たな管理運営の在り方を検討してまいります。</p> <p>(新たな公民連携手法の調査・研究) 公共施設・インフラ等の長寿命化に資する、新たな官民連携手法について、現場の現状・課題の検証、他自治体の先行事例の調査や事業者への聞き取り、専門家の助言等も踏まえ、有効な手法を検討して参ります。</p>

IX しごとの仕方改革編

[取組3] 市役所のアップデート

<p>(御意見要旨) (1)市役所のアップデート全般に対する意見</p>	<p>(件数) 1</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率化を求めるのは民間では当たり前。それに伴う費用は長い目で見ればやむを得ない先行投資だと思う。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>短期的な費用対効果だけでなく、長い目で見た行政コストの低減、職員の生産性向上、ひいてはより質の高い市民サービスの提供につながる投資について、積極的に推進してまいります。</p>
<p>(御意見要旨) (2)業務改善・施策の推進に対する意見</p>	<p>(件数) 2</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不要な点検や衛生管理、高いハードルの管理基準に対応できないことに対する会議などは、時間や労力の無駄。そういったことから解決すべき。 ・公務員は計画作成に時間をかけず、市民第一で能力を発揮すべき。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>市民ニーズへの的確な対応や現場の課題解決に注力できるよう、非効率化な業務や慣行が無いかを確認し、見直してまいります。</p>
<p>(御意見要旨) (3)柔軟な働き方や対面コミュニケーションの促進に向けたデジタル環境整備に対する意見</p>	<p>(件数) 3</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の方が大きなPCを持ち運んでいたのが驚いた。執務室も書類が多く、そうした部分が少しでも改善されることを期待する。 ・職員の方が大きなパソコンを持ち歩かれているが、高性能なパソコンを使用すれば効率も上がり、新しい発想や攻めたプランなどを考察する時間が生まれるかもしれないと感じた。 ・AIやDXで余白が生まれるのか疑問。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>高性能かつ軽量の業務用パソコンの導入は、生産性向上だけでなく、新しい発想や攻めのプランを検討する「余白」を生み出すうえで極めて重要です。AIやDX推進の真の目的は、こうした余白を創出し、職員が創造的な仕事に集中できる環境を整備することにあります。書類削減も含め、よりスマートで効率的な働き方への転換を強力に推進し、市民サービスの質の向上につなげてまいります。</p>

<p>(御意見要旨) (4)市役所のDXの推進に対する意見</p>	<p>(件数) 4</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル対応、AIをすすめ、人員を適切に配置してほしい。窓口の仕事、相談以外代用出来ることは多いので、人でないと対応できないこと以外は機械にしたらいい。 ・市役所のDX推進について、紙の使用削減、市民に求める提出物のデジタル化、税など専用システムを使う部署のDXを強化してほしい。また、DX達成状況を公表したり、表彰やインセンティブ（もしくはペナルティ）を与える制度を作ってはどうか。 ・教師用の業務用スマートフォンを取り入れてほしい。 <p>・メールでのやりとりをする際に、zipファイルにパスワードをかけて、添付ファイルを送っているが、セキュリティ上まったく意味がないので、廃止すべき。</p>		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>令和6年度に実施した市職員を対象にした意見募集では、611件もの多岐にわたる意見が寄せられ、DXの推進や業務用スマートフォンをはじめ働く環境の整備についても多く要望が挙がっているところです。</p> <p>しごとの仕方改革推進室を事務局とし、人事課、デジタル化戦略推進室を中心としたKyo-Xタスクフォースにおいて、現場の意見を聞きながら、順次、解決策を具体化してまいります。</p> <p>なお、パスワード付きZIPファイルは、受信と同時にウイルスの有無を確認できないことから、既に令和7年3月付けで添付ファイルの送信ルールの見直しを実施し、庁内に周知しております。</p>
<p>(御意見要旨) (5)デジタル技術を活用した利便性向上等に対する意見</p>	<p>(件数) 5</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所申込書類など、DXを活用して窓口で手書きをしてもらわないようにするような業務改善を希望したい。 ・区役所の窓口に行かないと手続きができないのは不便。 ・平日に休みがとれないため、公的機関が夜間対応できるようにしてほしい。 ・ネットでの申請は、決済まで完了するものを作るべき。また、マイナンバーカードで認証するなど、未だ残る押印を廃止してほしい。国に京都から声を挙げていってほしい。 ・市民に合わせた役所の開所方法を考えるべき。また、縦割りをやめるべき。AIの時代に各課で情報共有できていない役所はおかしい。ハンコを押すだけの仕事は要らない。効率化するべき。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>区役所業務については、これまでからマイナポータルを通じた電子申請、各種証明書のコンビニ交付やオンライン請求に対応するほか、令和8年度当初予算に精神障害者保健福祉手帳などの申請のオンライン化や、申請書の作成を支援する「書かない窓口システム」の導入を計上するなど、市民サービスの向上に取り組んでいます。</p> <p>法令により対面での手続が必要なものはありますが、引き続き、AIを含めたデジタル技術を活用した利便性向上について検討してまいります。</p>

IX しごとの仕方改革編

[取組4] 創造的に市政を改革する職員・組織づくり

<p>(御意見要旨) (1)創造的に市政を改革する・けん引できる職員の確保・育成に対する意見</p>	<p>(件数) 11</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新卒の採用ばかりでなく民間企業等での勤務経験のある方の採用をしてはどうか。 ・京都市で政策立案能力のある人材を確保できているのか。 ・新規採用・中途採用では学力だけでなく行政で働く意義を認識した人柄を重視すべき。 ・京都市職員の出向機会が限定的で、視野の狭さにつながっているのでは。他自治体や京都信用金庫のようにキャリアターン制度を構築し、民間経験を市政に活かすことで職員のエンパワメントを高めるべき。 ・本戦略に関わる市役所職員の意識改革を進めてほしい。 ・区民に最低限の尊厳を持ち、高慢にならず自分たちの仕事の本質が何か、公務に関わる方々に浸透させてほしい。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>複雑・多様化する行政ニーズに迅速かつ的確に対応するため、民間企業等において豊富な経験を有する者を採用するなど多様で有為な人材の獲得に一層取り組むとともに、職員一人ひとりの前向きなチャレンジの後押しや、多様な主体との対話・協働推進、グローバル化やDXなど社会の変化に対応できる職員の育成を進め、職員がやりがいを持ち、創造的に市政を改革する組織づくりに向けた取組を進めてまいります。</p>
<p>(御意見要旨) (2)全ての職員がいきいきと安心して活躍できる組織づくりに対する意見</p>	<p>(件数) 6</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間にならって在宅ワークなど、柔軟な働き方ができるようしっかり進めてほしい。 ・保育、教育現場で働く若者の離職率を改善するため、「雑用」を減らし、生徒・児童との触れあい、教材研究等に注力できるようにすべき。 ・小さなミスでも許されず、「互助と寛容のない職場」では職員が孤独とプレッシャーに押しつぶされてしまうため、心理的安全性が確保でき、どの職員も「京都市職員になってよかった。」と思われる職場になるよう、長期間に持続的に取り組んでほしい。 ・職員の持つ経験・特技を他の業務に活かすことはよいが、担当業務が優先の制度設計とすべき。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>全ての職員が安心して強みを発揮でき、いきいきと働くウェルビーイングの実現に向けて、風通しの良い職場風土づくり、業務効率化、柔軟な働き方を後押しする制度や環境づくり、カスハラ対策などの取組を総合的に推進してまいります。</p>

X 持続可能な行財政運営の確立（財政・組織体制編）

(御意見要旨)	(件数)	
<p>(1)財政目標及び中期財政収支試算に対する意見</p> <p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳しい財政状況を乗り越えた経験を踏まえ、持続可能な行財政運営への明確な意思を常に持ち続けることが重要。 ・将来世代への負担を意識した判断を期待する。 ・インフラの老朽化等が進む中、次世代に負担を押し付けないためにも、担税力の強化などを進めるべき。 ・金利が上昇傾向であり、過去負債の返済等を可能な限り早期に実施するべき。 ・行財政改革を徹底し、政策の優先順位を明確にするとともに、成果連動、点検を徹底すべき。 ・財政の見える化を推進し、市民に分かりやすく情報を公開・広報することが必要。 	15	<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>危機的な財政状況を再び繰り返さないよう、令和5年3月に条例（京都市持続可能な行財政の運営の推進に関する条例）を制定し、持続可能な行財政運営を推進していくことを明確に定めるとともに、新京都戦略の財政運営目標においても、特別の財源対策を講じない安定した財政運営、将来世代に配慮した財政運営を掲げているところです。</p> <p>今後、一般財源収入は増加傾向が見込まれるものの、社会福祉関連経費などの義務的経費も増加するため、物価の上昇などが見込まれる中、それ以外の歳出を同規模とする必要がある厳しい財政状況が見込まれます。そのため、限りある財源と人員を、京都の本質的な価値・魅力を高める政策へ重点的に配分し、市民の暮らしを豊かにすることで、担税力の強化につなげるとともに、不断の点検やDX化など、業務や経費の効率化・最適化を一層進めるほか、過去負債についても計画的に返済してまいります。</p> <p>また、持続可能な行財政の確立に向けては、市民の皆様様の御協力・御理解が不可欠です。そのため、財政状況をより分かりやすく発信し、より正確に御理解いただくための取組を推進してまいります。</p>
<p>(2)税に対する意見</p> <p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民税を引き下げるべき。 ・宿泊税を外国人観光客の方を高くするべき。 ・神社仏閣に課税するべき。 ・市内に流入する他府県ナンバーに課税すべき。 	8	<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>市税は、福祉、教育、子育て、包摂性の高いまちづくりや京都経済の下支え、安心安全など市民生活を支えるために不可欠の財源です。引き続き適切な課税に努めてまいります。</p> <p>本市独自の課税については、負担の公平性や、政策目的との整合性等の観点が必要であり、幅広く議論を行ってまいります。</p>

<p>(御意見要旨) (3)公営企業の経営に対する意見</p>	<p>(件数) 3</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公営企業の経営状況を早期に改善すべき。 ・交通局の市バス事業の黒字化と地下鉄の借金返済を早期に行うべき。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>市バス・地下鉄事業、上下水道事業ともに中長期の経営計画を策定し、取組を推進しています。厳しい経営環境にありますが、今後も、更なる経営健全化の取組の推進、経営基盤の強化を行ってまいります。</p> <p>市バス事業の経常収支については、令和6年度決算において、令和5年度決算に引き続き黒字となっております。今後も、収入増加策や経費削減策の実施により、可能な限りの経常収支の改善を目指してまいります。また、地下鉄事業の企業債残高につきましては、未だ約2,800億円と高い水準にあるものの、この間、着実に減少させてきており、引き続き、計画に基づき返済してまいります。</p>
<p>(御意見要旨) (4)組織改革に対する意見</p>	<p>(件数) 2</p>	
<p>(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の仕方改革を盛り込んだのはよい。垣根を越えた取り組みができるかどうかは、個人の資質に任せるのではなく、組織体制の在り方が問われるところであり、横串を刺せる組織体制について具体的な方策を示すべき。 ・市民が求めているものや本質的な課題を議論するため、庁内横断で課題解決に向き合う風土を向上するとともに、職員数減によりサービスが低下しないようにしながら、戦略をしっかりと実行して欲しい。 		<p>(御回答・本市の見解)</p> <p>本市ではこれまでから、簡素で効率的な組織体制の整備を進めるとともに、庁内横断組織の有効活用をはじめ、多様な行政需要や新たな課題等に的確かつ迅速に対応する組織体制を整備してまいりました。</p> <p>引き続き、社会情勢や重要課題等を踏まえ、時宜に応じた機動的かつ効果的な組織体制を構築することで、安定した行政サービスの提供及びその向上を図ってまいります。</p>

(御意見要旨)	(件数)	
(5)メリハリのある人員配置の推進に対する意見	6	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な人事と誠実な業務遂行をすべき。 ・業務の集約化・細分化により職員の担当・裁量の範囲が狭まっている。行政サービスの充実には、効率化などで生まれた余力を一連の関連する業務に振り向けるべき。目指す組織づくりのために、必要人員を確保して、メリハリのある人員配置を推進すべき。 ・京都市の人口は指定都市9番目なのに、職員数は5番目で過剰。人口相当で2000人減らし年収600万円と仮定すると年間120億円の削減が可能ではないか。交通局も同様である。 ・職員が多すぎて、個々の職員に権限委譲が十分なされていないように感じる。 ・公務員は20年勤務したら強制的に退職し行政書士となる仕組みを設けてはどうか。こうすることで若い人が公務員になる機会が増えるとともに、行政書士のサポートを受けることで職員の負担を減らせるのではないか。 ・非正規雇用者の実質的な「使い捨て」は絶対に禁止すべき。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>本市の財政状況は一定改善したものの、今後労働力人口の更なる減少が想定される中、持続可能な行財政運営を担保していくためには、引き続き、効率的でスリムな人員体制を構築することが重要です。その一方で、ますます複雑・多様化する行政需要への対応や、職員がやりがいを持っていきいきと働くことができる職場環境整備のためには、積極的に体制強化を行うことも必要であると認識しております。</p> <p>これらのことを踏まえ、業務見直しやデジタル化等による体制効率化や、時宜に応じた施策・事業のスクラップ&ビルドを徹底することにより、メリハリをつけた人員配置を推進してまいります。</p>

XI 京都の本源的な課題への取組

(御意見要旨)	(件数)	
(1) 京都の本源的な課題への取組に対する意見	26	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の生活を見てほしい。錦市場や嵐山の現状、伝統的な老舗の後継者不足と廃業を京都市はどう見ているのか。小規模商店や織物工場、染物屋など「町衆」をサポートしないのか。このままでは10年たらず、京都の芸術や文化の支援者がいなくなってしまう。 ・京都の本源的課題は観光への過度な依存と、プライドを頑なに守り通していること。今後は「多種多様な文化」を受け入れ、優れたアート、人材、芸術が育つ環境を作してほしい。 ・京都の歴史や文化が表面的に消費されているという表現に強く賛同。京都の歴史や文化を守り育てるための観光という視点が重要。 ・特に観光業で海外資本を排除し、昔の京都らしい町並み、昔の商店街、市場の復活を目指すべきである。 ・懸念される観点の欠落がある。近年、急速に田の字地区の世代交代が進み、遺産分割などで土地を手放された後は、ホテル・高額なマンションが建つ。入居者は、地域活動や町内会にも参加されない観光客のような方々が多く、これらの方々の感性に訴える巻き込み方をどうするのか、考えるべき。 ・長い海外生活から、京都の文化が世界に誇れるもので、廃れてはならぬものだと思えるようになった。残存する建物を残し、職人をサポートし、伝統文化に触れる子供達を増やすことに予算を注ぎ込んで欲しい。子供達が学校等で文化を楽しむ、嗜む、学ぶことが将来の投資になる。本物さえ生き続けていれば個々人が多言語で発信する。PRよりも、街並みを丸ごと保存するような取り組みを強化してほしい。 ・京都イコール日本文化であり、観光として社寺や自然を残すだけでなく、市民の生活、習慣も大切な文化。それらが資産目的のマンション林立、人口流出、外資の飲食店改装などで危機に瀕している。他方で、まだまだ頑張る伝統工芸の店もあり、伝統工芸や古民家に暮らす生活をいかに残し、伝えるかが大事。 ・京都はよく訪れるが、観光が盛んな中、京都市、市民、京都文化に貢献されている方々に正当な対価もなく、そういった方々の生み出したものに群がる人々に辟易する。観光税、宿泊税の形は問わず、高付加価値なコンテンツとして、京都市は市民と共に生きていくべき。オーバーツーリズムで犠牲になる必要はなく、選ばれるのではなく、京都が選び、京都市民に正当な対価を支払える者のみが京都に来るべき。 ・地に足の着いたプロジェクトをやって欲しい。市民も巻き込んで観光都市として成熟していく事が必要であり、市民生活と観光の両立、交通、町並み保全がテーマになるのが自然。何年も解決されないまま放置されていることに危機感がある。 ・60年京都にいて思う事は「ほんまもの」が身近にあったという事。京都の文化、お寺や着物生地、器、お料理、景観など素晴らしいものをしっかり未来に残して行く事が大事。 	<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>新たに「XI 京都の本源的な課題への取組」等において、「京都の本質的な価値・魅力」は、市域に広がる豊かな自然の恵みにより育まれ、人々が紡いできたこと、それぞれの地域の豊かな個性、まち柄を活かしたまちづくりを進めること等を追記しました。</p> <p>改定案では、先人が大切に育み紡いできた「京都の本質的な価値・魅力」を次の世代に継承し、さらに高める視点を特に重視し、京都学藝界構想や京都の本源的な課題への取組を盛り込んでおります。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、市民、府・経済界、さらには京都に関わる幅広い人々と協働しながら、「IV めざすまちの将来像」の実現に向け、不断の努力を重ねてまいります。</p>	

XII 戦略の推進

(御意見要旨)	(件数)	
(1) 戦略の推進に対する意見	31	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のウェルビーイングを重視し、これを高める政策に取り組んでほしい。また、市民のみならず京都に関わる人々のウェルビーイングを高める視点も大事。 ・「新京都戦略」を市民で知っている人が少ない。しっかり周知し、意見をもらい、反映し、反映結果の再周知を求める。 ・京都の本質的な価値・魅力が失われる懸念がある中、この戦略を進めることは非常に重要。重視する3つの視点は、京都が世界に誇る力であり、オール京都で戦略を推進し、更に磨きをかけるべきである。 ・良い変化には時間が掛かることは歴史的にも証明されている。この素晴らしい戦略を実現可能なものにするために、目先の結果や効果にとらわれず、長期的かつ大局的な視点で取り組んでもらいたい。 ・急いで決定するのは、あまりよくない。多様の意見を聞いているか。古い感性と、地縁に頼った人脈での構想になっていないか。正直、これで京都市の未来が決まるのかと思うと、とても悲しくなった。 ・全体的に「方向性」「目指す」「推進する」などの理念的な表現が多く、具体的な施策や数値目標が見えにくい。市民への説明責任の観点からも、何をするのか、いつまでにどのような成果を目指すか、市民生活にどのような変化があるかなど、具体的な施策や実行計画を明確に示していただくことを期待する。 ・社会総がかりで解決というが、官の本来の仕事の民への押し付けになってはならない。また、出番と居場所が欲しい市民がどれくらいいるのか。これ以上欲しくない市民に価値観の押し付けになってはならない。府市ミーティングがどこまで市民のためになっているのか疑問。府市協調に過剰に捕らわれて、大胆なことが出来ないのでは本末転倒。 ・理念・方向性に大いに賛同。今後は理念にとどまることなく、具体的な施策と継続的な取組として着実に推進していくことが重要である。京都の文化、景観、自然環境を守り活かしていくために、国や京都府、関係団体、地域社会などの多様な主体と力を合わせ、京都の本質的な価値を未来へ継承していく実効性ある推進体制を期待する。 ・「新しい公共」について、地元の事情を知った人々の生の問題意識や様々なアイデアなど、内容の良いものであれば、どんどん採用していくという姿勢で政策に生かしていただければ、京都市が停滞した街になるのを防ぎ「突き抜ける「世界都市京都」」へつながる近道になる。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>市民の皆様をはじめ地域、NPO、国、府、企業、大学など多様な主体の皆様にご理解いただき、社会総がかりで戦略に掲げる取組を推進すること等を掲げております。新たに「IX しごとの仕方改革編」において、委託や補助金等の形で、京都市から公共の仕事をお願いしている各種団体についても、共に政策を推進していくパートナーという観点を重視し一層連携することを追記しました。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、戦略の進捗状況等について、引き続き、分かりやすい情報発信に努めるとともに、多様な主体の皆様との対話や専門的な知見等を基に、中長期も見据えて取組を磨き上げ、毎年度の予算編成で推進事業を定め、市会との議論を通じて戦略を着実に推進することで、市民等の皆様にご取組の効果を実感いただけるよう努めてまいります。また、市民のウェルビーイングにつながる京都のまちの要素をさらに調査・分析し、各政策分野の評価や政策の企画立案に活用してまいります。</p>

XIII その他の意見

(御意見要旨)	(件数)	
(1) 個別事業等に対する意見	73	
<p style="text-align: center;">(主な御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬老福祉乗車証をICカードにしたほうが利便性が向上する ・外国人による土地購入の規制を求める。 ・マイナンバーカードを推進する理由をきちんと説明してほしい。 <p>困っている人に配る給付金ならば、マイナンバーカード作成・銀行口座紐づけを条件とすべきではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路上喫煙対策やポイ捨て対策をすべき。 ・北陸新幹線の延伸は中止し、ルート変更ではなく、敦賀止まりにすべき。莫大なお金をかけて、完成するのは何十年も先。人口減少も進み利用者やスタッフはいるのか。壊れた自然はそう簡単には戻らない。地下水にも影響があり、予想をはるかに超える大災害の可能性もある。市民の多くは延伸を望んでいない。 		<p style="text-align: center;">(御回答・本市の見解)</p> <p>頂いた様々な御意見について、各施策の推進等に当たっての参考にさせていただきます。</p>